

# アニュアルレビュー 2020

Annual Review



# アニュアルレビュー2020

Annual Review

## CONTENTS

	発刊に寄せて 来生 新	3
	特集(2020年度の主な出来事)	5
	学生に向けた教育	7
	社会に向けた教育	15
	放送大学における研究	22
	国際交流への取り組み	29
	教員による社会貢献	30
	学習センター・学生の活動	34
	データで見る放送大学	38

### 【編集】2021年度放送大学学内広報委員会

委員長：情報／辰己 丈夫教授	副委員長：社会と産業／齋藤 正章准教授	
生活と福祉／戸ヶ里 泰典教授	心理と教育／波田野 茂幸准教授	人間と文化／島内 裕子教授
情報／森本 容介准教授	自然と環境／加藤 和弘教授	茨城学習センター／佐藤 和夫所長
学習センター支援室／山内 克也室長	オブザーバー：菊川 律子副学長	事務局：総務部広報課





## 2020年度学位記授与式

令和2(2020)年度学位記授与式は、新型コロナウイルス感染症が国内で拡大している状況を受け、卒業生・修了生及び関係者の健康・安全面を考慮した結果、当初の開催予定日だった2021年3月20日(土)に、BS231chで60分の放送番組として挙行され、学長式辞、祝辞、卒業生・修了生謝辞及び学長表彰などの様子が放送された。

また同月中に、45分のダイジェスト番組が、BS231ch及び232chにおいて複数回放送された。

なお、2020年度の学部卒業生は6,498名、大学院修士課程修了生は257名、大学院博士課程修了生は11名であった。





## 2020年 コロナ禍の1年を 振り返って

放送大学学長 來生 新



### 未曾有の事態に慎重さを優先

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の対策に追われた1年でした。「対面」がタブーになるという前例のない事態となり暗中模索、新たな経験の年だったと振り返ります。日ごろ、非対面授業を基本とする放送大学とはいえ、卒業研究や大学院の研究指導、学位の審査などには工夫が必要でした。加えて緊急事態宣言時には、「出勤者7割減」により、さまざまな困難を強いられました。授業に関して問題となったのは、やはり面接授業による“三密”です。これには学習センターへの“移動”の問題も絡むため、結果として、1学期の面接授業ならびに年2回行われる各学習センターでの卒業式等イベントも中止とせざるを得ませんでした。しかし、そのままでは、1学期で卒業しようとしていた学生が単位を取得できなくなる等の問題も生じます。そこで面接授業に変わって単位を授与する仕組み作りが急務となりました。その頃、文部科学省から「対面性にこだわらずWEB等の使用も認める」といった非常措置の周知がありましたので、従来の基準とは異なる方法を模索できたことが幸いだったと思います。



危機の時代に考えるホームページ

## 学生の救済を第一に

解決策として最初に決まったのは、WEB会議システムを使った双方向授業です。世界中でステイホームが定着し、WEB会議システムが一気に普及した頃で、その安定性も信頼できるとして急速5月に実施を決めたという経緯です。しかしながら、放送大学には、高齢者も多く、このような仕組みを活用できない学生を如何にして救済するかという課題が残ります。そこで、もう一つの策として生まれたのが、現在YouTubeで公開している全15回の講座「危機の時代に考える」です。この講座は、授業ごとに出題される問題に解答し、さらにレポートを提出することで1単位を授与するという形式です。これにより、面接授業と同等の双方向性を確保できるというわけです。しかし、この講座を実現させるにあたっては、やはり経験したことのない困難が付きまといました。

## 時間と闘いながら有志の熱意で

早速、放送部や制作部と打ち合わせをしましたが、まず直面したのは、制作部が手一杯で撮影がままならないという現実でした。窮地に陥ったそのとき、放送大学オンライン教育センター長である近藤智嗣教授が、自分が収録から編集まで担当すると申し出てくれたのです。そうすると残るは時間的な問題だけでした。再度確認すると1学期の試験の期日に間に合わせるためには6月中に完成させなければいけないとのこと、製作期間は約1カ月しかありません。通常、放送大学の授業15回分は、丸1年かけて収録しているので、これは大変なことです。ボランティアとして手を挙げてくださった先生方に、それぞれの領域からパンデミックを紐解く授業をお願いしましたが、その準備も含めて1カ月ですから、まさに尋常ではない状況に皆一丸となって取り組みました。残念ながら、放送す



るには細かな問題をクリアせねばならず、それでは間に合わないということでホームページでの公開に至ったというわけです。しかし、そのような急ごしらえで製作したにもかかわらず、非常に質の高い授業に仕上がったと自負しております。現在は放送でも視聴できるので、より多くの学生に触れてもらいたいと思います。

放送大学のカリキュラム構成は、一般の大学よりフレキシビリティが高く、年度ごとに新しい観点での科目を提供できるという特徴があります。また、社会のニーズに合わせて必要な科目を作っていくメカニズムもあります。2020年度は、学生から学びの機会を奪わないために、こうした特性を大いに活用した1年でありました。今後も放送大学として学生に寄り添う姿勢を継続していきます。



全15回の講座

## 【特集】2020年度の主な出来事

1

### 新型コロナウイルス感染症による本学の教育への影響

#### 単位認定試験

単位認定試験は「期末試験」に相当するもので、各学期の放送授業終了後、通信指導に合格した者を対象として、所定の時間割に基づき、全国約100箇所の各学習センター等を試験会場として実施される。

2020年度においては、新型コロナウイルス感染症をめぐる国内状況に鑑み、学習センター等での試験実施が困難となったため、急遽対応策を検討し、代替措置として解答用紙や返送用封筒をすべての受験資格のある学生に送付し、学生は自宅等でインターネットやコンビニエンスストアのプリントサービスを使って試験問題を閲覧して、郵送で答案を提出するという自宅受験方法で実施した。

2020年度第1学期、第2学期の各学期で、それぞれ延べ20万人の受験者が受験し、8月と2月に成績評価による単位認定を行った。

#### 面接授業

2020年度第1学期の面接授業は、新型コロナウイルス感染症の感染リスクを最小限に抑えると共に、急激な感染の拡大を防止するため全国一律に全面閉講としたが、面接授業の受講機会を奪われた学生(科目登録者)に対し、学長・副学長も含めた専任教員71名による「Web会議システム等を利用した授業」80科目を急遽開講した。併せてパソコン・インターネットに不慣れな受講者を対象とした、Web接続のためのリハールサル及び操作説明会を17回実施した。

第2学期の面接授業は、全国の学習センターの教室規模に応じて、定員を半分以上に減員するなどの感染症対策を講じて、「対面式授業」1,132科目、「Web会議システム等を利用した授業」119科目の計1,251科目を開講した。

#### 公開講演会

従来、一般向けに対面式で開催してきた「公開講演会」を、今年度はオンラインまたはハイブリッド(対面式+オンライン)に変更して、12回(オンライン方式11回、ハイブリッド方式1回)開催した。

一般市民や在学生を対象に、担当科目や現代社会に関するテーマで、主に本学教員が講師となり、本学の施設内から収録及びライブ配信を行った。オンライン方式の採用により、閉所や来所制限を余儀なくされた学習センターの状況や収容人数に影響されず、多くの方に全国各地からの視聴参加していただくことが可能となり、計5,600名以上の参加となった。



野崎敬教授によるオンライン講演会  
「文学と危機 —フランス文化の教えてくれること—」配信の様子



森津太子教授によるオンライン講演会  
「社会的距離をとるということ  
—コロナ禍の社会心理学—」配信の様子

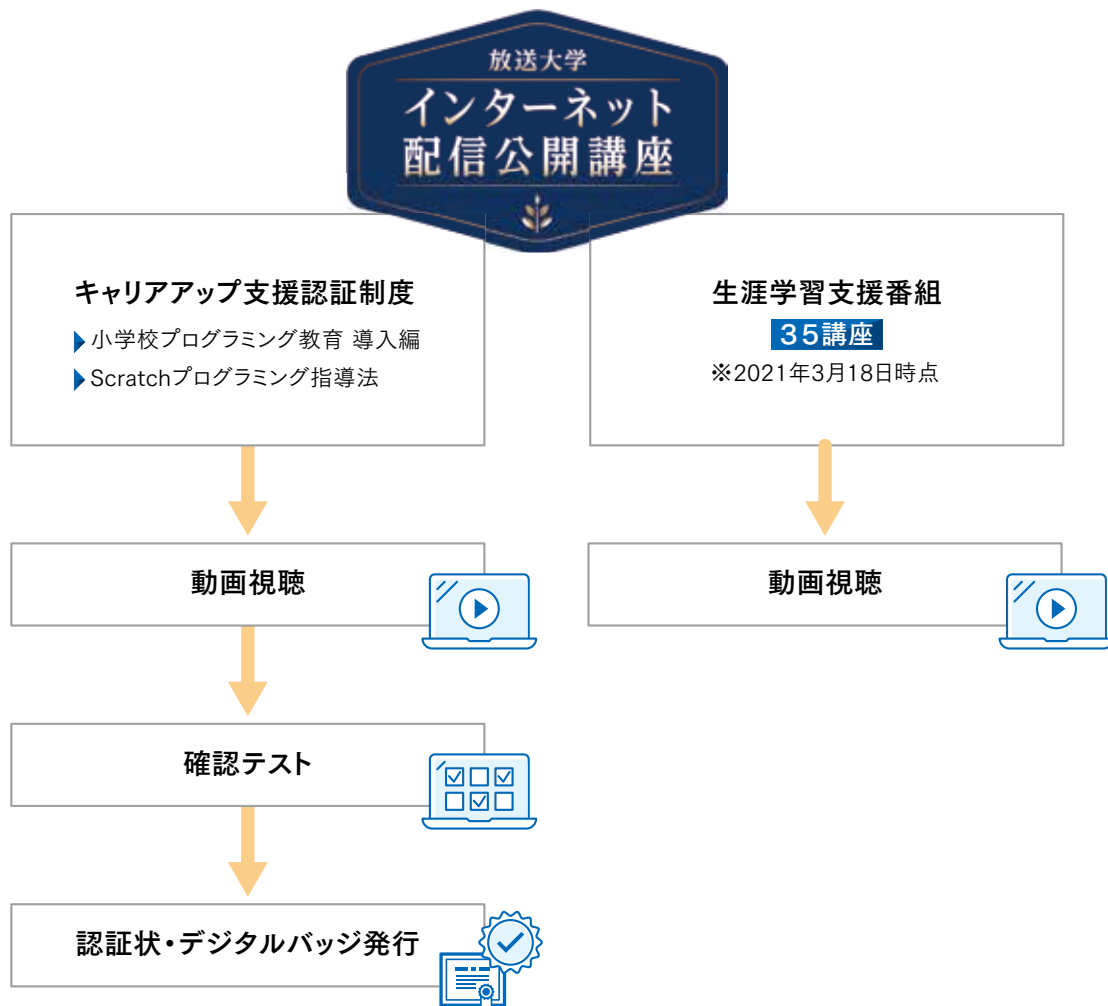


2

## インターネット配信公開講座がスタート

### インターネット配信公開講座

本学のキャリアアップ支援認証制度に係る公開講座及び生涯学習支援番組の一部などをインターネットにて配信。  
キャリアアップ支援認証制度の修了者には認証状の他、デジタルバッジを発行。



デジタルバッジが交付される  
「放送大学キャリアアップ支援認証制度」



講座の修了者に交付される本学のデジタルバッジ

# 学生に向けた教育

## 放送授業(テレビ・ラジオによる授業)



放送授業は、BSテレビ(232ch)またはBSラジオ(531ch)で受ける授業である。科目によってテレビ科目とラジオ科目に分かれており、BS放送やケーブルテレビなどを通じて、全国で放送されている。なお、学生専用サイト(システムWAKABA)では、全ての科目をインターネット上で配信しており、時間と場所を選ばずにパソコンやスマートフォンなどで視聴可能である。1コマ45分の授業が15コマで構成された2単位科目である。

2020年度は、学部288科目、大学院58科目の合計346科目を開設している。制作された放送授業は、原則として4年間(毎年2学期、合計8学期間)開講し放送するため、全開設科目のおよそ4分の1ずつが毎年入れ替わる。

2020年度の新規開設科目は、学部56科目\*(テレビ29科目、ラジオ27科目)、大学院8科目(ラジオ8科目)の合計64科目である。

※資格取得等に資する科目を含む

2020年度 開設科目数			
	テレビ科目	ラジオ科目	計
学部	162	126	288*
大学院	4	54	58
計	166	180	346

## 2020年度新規開設科目(基盤科目)

基盤科目 (外国語)	科目名	メディア
	英語で読む大統領演説('20)	TV
	韓国語Ⅰ('20)	TV
	韓国語Ⅱ('20)	ラジオ

## 2020年度新規開設科目(コース科目)

▶生活と福祉		
導入科目	生活経済学('20)	ラジオ
専門科目	生活環境と情報認知('20)	TV
	コミュニティがつなぐ安全・安心('20)	TV
	リスク社会の家族変動('20)	ラジオ
	家族問題と家族支援('20)	ラジオ
	災害看護学・国際看護学('20)	TV
	精神疾患とその治療('20)	ラジオ
	ライフステージと社会保障('20)	ラジオ
総合科目	社会福祉と法('20)	ラジオ

## ▶心理と教育

導入科目	教育・学校心理学('20)	TV
専門科目	教育調査の基礎('20)	TV
	学校と法('20)	ラジオ
	肢体不自由児の教育('20)	TV
	特別支援教育基礎論('20)	ラジオ
	知的障害教育総論('20)	ラジオ
	錯覚の科学('20)	TV
	心理学研究法('20)	TV
	社会・集団・家族心理学('20)	TV
	産業・組織心理学('20)	ラジオ
	中高年の心理臨床('20)	ラジオ
	認知行動療法('20)	TV
	臨床心理学概論('20)	TV
	心理職の専門性('20) —公認心理師の職責—	ラジオ
	心理的アセスメント('20)	ラジオ
	司法・犯罪心理学('20)	ラジオ



▶社会と産業

導入科目	現代の会計('20)	TV
専門科目	災害社会学('20)	TV
	金融と社会('20)	TV
	大学マネジメント論('20)	ラジオ
	中東の政治('20)	TV
	ヨーロッパ政治史('20)	ラジオ
	現代東アジアの政治と社会('20)	ラジオ
	行政学概説('20)	ラジオ
総合科目	新時代の組織経営と働き方('20)	TV
	開発経済学：アジアの農村から('20)	TV

▶人間と文化

導入科目	日本語学入門('20)	TV
専門科目	日本の近世('20)	ラジオ
	中国と東部ユーラシアの歴史('20)	TV
	世界文学の古典を読む('20)	ラジオ
	「人新世」時代の文化人類学('20)	TV

▶情報

専門科目	データの分析と知識発見('20)	TV
	映像コンテンツの制作技術('20)	TV
	ユーザ調査法('20)	TV
	情報化社会におけるメディア教育('20)	ラジオ
	身近なネットワークサービス('20)	TV
	アルゴリズムとプログラミング('20)	ラジオ
	コンピュータ通信概論('20)	ラジオ
総合科目	AI システムと人・社会との関係('20)	ラジオ
	情報技術が拓く人間理解('20)	TV

▶自然と環境

専門科目	場と時間空間の物理('20)	TV
	エントロピーからはじめる熱力学('20)	ラジオ

▶資格取得等に資する科目

夏季集中型科目	司書教諭資格取得に資する科目	
	読書と豊かな人間性('20)	ラジオ
看護師資格取得に資する科目		
	母性看護学('20)	TV

大学院 2020年度新規開設科目

人間発達科学	教育行政と学校経営('20)	ラジオ
	道徳教育の理念と実践('20)	ラジオ
臨床心理学	司法矯正・犯罪心理学特論('20)	
	—司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開—	ラジオ
	知財制度論('20)	ラジオ
	(情報学プログラムと共通)	
社会経営科学	社会的協力論('20)	ラジオ
	—いかに近代的協力の限界を超えるか—	
	地域産業の発展と主体形成('20)	ラジオ
人文学	朝鮮の歴史と社会—近世近代('20)	ラジオ
情報学	知財制度論('20)	ラジオ
	(社会経営科学プログラムと共通)	
	マルチメディア情報処理('20)	ラジオ

## 面接授業(スクーリング)

面接授業(スクーリング)は、放送授業とは別に受講する独立した科目で、教室などの場で教員から直接指導を受ける授業である。また、学友と共に学んだり、教員と交流を深めたりできる貴重な機会である。全国50カ所の学習センターと、全国7カ所のサテライトスペースで、年間約3,000クラスが開講されている。

2020年度は、1,331科目(1学期80科目、2学期1,251科目)を開講した。面接授業はすべて、1科目1単位で、1時間30分の授業7回、45分の授業1回、計8回で構成されている。面接授業が行われるのは、教室の中だけでなく、学習センター以外の場所で実習等を行う授業も開講している。



専門科目:人間と文化

### 建築・都市・景観と自己同一性

講師 松政 貞治(富山大学学術研究部芸術文化学系・教授)

開講日 2020年10月17日(土)~18日(土)

#### 【授業テーマ】

- 第1回 歴史的文化的意味環境としての建築:富山、日本、中国の事例
- 第2回 固有な方言としての富山の建築:散居村、合掌造り、土蔵造り、望楼
- 第3回 世界のホンモノの建築の事例映像1 西洋
- 第4回 世界のホンモノの建築の事例映像2 日本
- 第5回 世界のホンモノの建築の事例映像3 アジア
- 第6回 世界のホンモノの建築の事例映像4 近代:ル・コルビュジェの「東方への旅」
- 第7回 共同的沈殿の経験としての建築と都市:パリを中心に
- 第8回 富山の建築・都市・景観の固有価値

建築・都市・景観の世界遺産が選ばれた理由を確認しながら、それらの歴史的文化的アイデンティティ(自己同一性)が私たち自身のアイデンティティを構成していることを考察する授業を行いました。さらに、どのような建築・都市・景観が良好なもので、また好ましくないものなのかを、写真や映像資料を見ながら考えました。

主に欧米や中国、日本のものを事例に挙げ、日本の事例は特に地域性の概念を中心にして、富山県内の建築・都市・景観(町家、散居村、近現代建築等)を分析・評価を行いました。資料には県民なら一度は見たことがある身近な風景もあり、大変興味深い授業となりました。





専門科目: 自然と環境

## 実験表面化学 ～シャボン玉～

**講師** 森 義仁(東京文京学習センター客員教員・お茶の水女子大学教授)

**開講日** 2021年1月9日(土)～10日(日)

### 【授業テーマ】

- 第1回 はじめに
- 第2回 液滴の表面張力①
- 第3回 液滴の表面張力②
- 第4回 液体膜と表面張力①
- 第5回 液体膜と表面張力②
- 第6回 樟脳ボート(運動の制御)①
- 第7回 樟脳ボート(運動の制御)②
- 第8回 まとめ

東京文京学習センターでは教養学科の実験授業について教員の間で議論することがあります。一方は先端技術の理解につながる実験、他方は歴史的な実験です。歴史的な実験は、道具の精度を人間の知恵で補足していた時代のマイルストーンと言え、そのアイデアから用意したのが、今回ご紹介する実験表面化学～シャボン玉～です。

この授業の3つ実験の中から2つをご紹介します。一つ目の実験は管から落ちる一滴の水の重さを計ります(図1)。一滴の水が管の先からすぐに下に落ちないのは上向きの力ため、表面張力を源とする力です。電子天びんで計った一滴の重さから、単純な数学モデル( $mg = 2\pi r\gamma$ )をもとに、表面張力を計算します。洗剤水を使うと食器用洗剤ボトルの裏面にある「適量は1Lの水に洗剤0.75 mL」の「適量」の意味が分かります。

2つ目の実験は、針金で作った輪に洗剤水で膜を張ります。その輪の上にストローを置くと膜は二枚になります。その一枚を指先で割ると、残りの膜は縮み、ストローが引っ張れます。この動きをデジカメでビデオ撮影し(図2)、センター端末室のパソコンで処理すると、膜が縮まろうとする力を、数学モデルをもとに計算することができます。その力の源は表面張力です。

計測は電子天びんやデジカメを使いますが、実験の成果は「指先」次第です。数学モデルに近づくためには、出来るだけゆっくりと管の先から水滴を出し、液膜を指先で割りストローが真っすぐ動くようにする、どちらも指先感覚が要求されます。

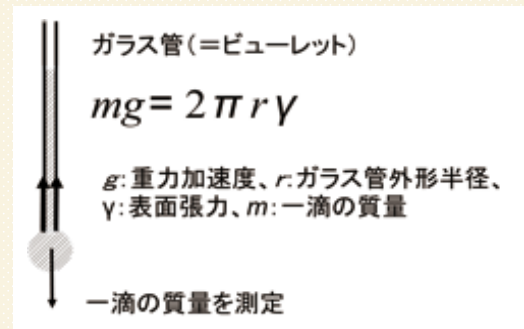


図1一滴の重さ

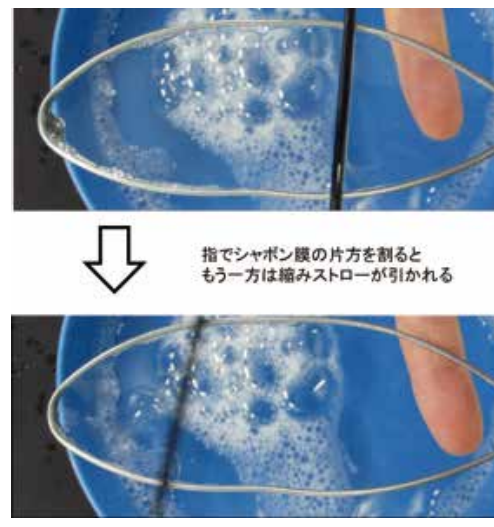


図2シャボン膜とストロー



## オンライン授業

オンライン授業は、インターネットに接続されたパソコンなどを使い講義を視聴し、学習活動や成績評価の課題（選択式問題、レポート、ディスカッション等）に取り組む授業で、2015年度に開設された。1単位（8コマ）の科目と、2単位（15コマ）の科目があり、1コマあたり、講義が45分程度と学習活動が45分程度を合わせた90分程度である。成績評価は課題により行うため、通信指導や学習

センターで行う単位認定試験はなく（一部科目は単位認定試験を実施）、自宅や職場などインターネット環境があれば、場所や時間に縛られることなく自分のペースで学ぶことができる。

2020年度は1学期に教養学部10科目、大学院修士課程2科目を開講した。また2021年度開講の教養学部6科目、大学院修士課程科目6科目を制作した。



### 2020年度教養学部 新規開設科目

コース	科目名	単位数	
一般科目	基盤科目		
	子育て支援－法と政策を学ぶ('20)	1	
	演習初歩からの数学('20)	1	
生活と福祉	導入科目		
	生活環境情報の表現－GIS入門('20)	1	
	循環器の健康科学('20)	1	
心理と教育	導入科目	キャリアコンサルティング概説('20)	1
社会と産業	専門科目	椅子クラフツ文化の社会経済学('20)	1
人間と文化	導入科目	博物館で学ぶ文化人類学の基礎('20)	2
情報	専門科目	C言語基礎演習('20)	1
		数理最適化法演習('20)	1
自然と環境	専門科目	地球と環境の探究('20)	2

### 2020年度大学院修士課程 新規開設科目

プログラム	科目名	単位数
人文学	アカデミック・スキルズ('20) (臨床心理学プログラム以外と共通)	1
情報学	eラーニングの理論と実践('20)	2

### オンライン授業科目数推移

	2015		2016		2017		2018	2019		2020
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	1学期	2学期	1学期
制作科目数 (コマ数)	11 (116)		13 (160)		12 (159)		10 (136)	14 (129)		12 (109)
運用科目数	2	2	10	13	20	26	38	48	50	61

## 科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)

放送大学 **エキスパート**

「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)」は、本学が2006年から実施している学習プログラム(履修証明プログラム)で、学校教育法第105条「履修証明制度」に対応している。本学が指定する特定の授業科目群25プランに沿って専門分野を体系的に学び申請することで、修了者には法に基づく認証状と証明書のほか、希望者には携帯できる認証カードが交付される。履歴書への記載や、博物館などボランティア活動に役立つ。

2021年1月31日までの累計認証取得件数は27,582件である。

### 2020年度認証プランと認証状取得者数(2021年1月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,713
福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,622
社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,348
食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	823
心理学基礎プラン	心理学基礎	3,770
臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	2,130
社会探求プラン	現在社会の探求	625
市民活動支援プラン	市民政策論	645
実践経営学プラン*	経営の理解	623
ものづくりMOTプラン*	ものづくりMOT(技術経営)を学ぶ	359
次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,260
コミュニティ学習支援プラン*	地域生涯学習支援	337
異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,160
アジア研究プラン*	アジア研究	491
日本の文化・社会探求プラン	日本の文化と社会	636
宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	734
生命科学プラン	生命人間科学	888
環境科学プラン	環境科学の基礎	764
社会数学プラン	数学と社会	423
エネルギー・環境研究プラン*	エネルギー環境政策論	331
芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,298
歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,515
自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	624
工学基礎プラン	工学基礎	365
人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザインプラン	133
計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	237
地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	475
日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成～2020年ボランティア・ガイド～	140
学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	60
データサイエンスプラン	データサイエンス	53
合 計		27,582

\*がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2024年3月31日まで申請が可能です。

### 学校教育法第105条「履修証明制度」とは…

社会人などを対象とした、2007年に始まった新しい履修・学習の証明制度。大学などが開設した一定のまとまりある学習プログラム(履修証明プログラム)の修了者に対して、大学などが法に基づく「履修証明書」(certificate)を交付できる制度(詳細は文部科学省のホームページを参照)である。

## 寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2020年度には、2科目の寄附科目を放送した。

### 2020年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法('18)	日本音楽著作権協会(JASRAC)	ラジオ
現代の内部監査('17)	日本内部監査協会	TV

## キャリアアップ支援【資格取得】

### 教員

本学では、現職教員が教育職員検定により、上位や他教科等の教員免許状を取得しようとする際に必要な科目の一部又は全部を履修することができる。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、本学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)の実施で、2020年度は約18,200人が、延べ約82,000科目を受講した。

- ▶ 上位・他教科・隣接校種の教員免許状
- ▶ 特別支援学校教諭免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域)
- ▶ 養護教諭免許状
- ▶ 栄養教諭免許状
- ▶ 学校図書館司書教諭資格



### 看護師

准看護師として7年以上の就業経験を有し、看護師学校養成所2年課程(通信制)に入学して65単位以上を修得して卒業すると、看護師国家試験を受験することができる。その際、放送大学で修得した単位を各養成所の判断により、総取得単位の2分の1を超えない範囲で当該養成所において修得したものと認定を受けることができる。

また、放送大学大学院では、看護師の特定行為研修科目のうち、共通科目(講義・演習部分)をオンライン授業として全国の看護師に科目を提供する。なお、2020年12月現在、本学は指定研修機関30機関の協力施設となっている。

- ▶ 看護師国家試験受験資格
- ▶ 看護師の特定行為研修制度対応科目



### 心理学

本学で人気のある心理学は、科目が豊富で、生活や仕事に役立つ知識を得られるだけでなく、資格取得を目指すことも可能である。

日本心理学会が認定する「認定心理士」は、職業に直結する資格ではないが、臨床心理士やカウンセラーを目指す人には大切な第一歩であり、本学ではこれまでに11,700人以上が資格取得要件を満たしている。本学での臨床心理士資格審査の合格率は、全国平均を大きく上回り2020年度は80%であった。

また、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う「臨床心理士」は、文部科学省の認可する日本臨床心理士資格認定協会が認定し、公立学校スクールカウンセラーの資格要件になるなど、公的にも認められている。本学大学院は、受験資格を得るために同協会が指定する大学院(2種)で、修士全科目として臨床心理学プログラムを修了し、修了後合計1年以上の心理臨床実務経験を積んだ後に受験可能になる。

「公認心理師」は2015年に成立した「公認心理師法」に基づく、心理職初の国家資格である。本学では、2019年度より学部段階における公認心理師カリキュラムを開始し、2022年度までに、公認心理師法等に規定される科目の対応科目を全て開講する予定である。なお、対応科目のうち2022年度に開講予定の「心理演習」と「心理実習」(定員30名)の2科目を受講するためには選考試験に合格する必要がある、第1回選考試験は2021年度秋に実施を予定している。

※本学大学院における公認心理師カリキュラム開設については、現在検討中である。

本学で修得した単位は、その他以下の資格取得のために活用することができる。

- ▶ 学芸員資格
- ▶ 社会教育主事任用資格
- ▶ 社会福祉主事任用資格
- ▶ 介護教員講習会の対応科目





## 特別な学生支援

### 誰もが心地よく学べるために特別な支援が必要な学生への学習支援

本学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、様々な学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。

2020年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は129科目あり、これは全テレビ科目の約79%に当たる。特別講義についても36科目全てに字幕を付して放送を行った。また、ラジオ科目については、インターネット配信において、新たに6科目の字幕視聴が可能になった。

## 学生の研究成果の公開

本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。

2020年度は、2019年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」25点をシステムWAKABAで公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年度から刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評

さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、特別措置を講じている。例えば、2020年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は72科目で、対象となった学生数は延べ83名であった。また、点字での出題対象科目数は34科目であり、対象となった学生数は延べ40名であった。

価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2021年3月刊行の第17号には2019年度修了生全319名の研究成果の中から、論文11点、研究ノート42点が掲載されている。

なお、「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」については、第17号をもって冊子体での刊行を終了し、2020年度修了生よりオンラインでの発信を目指すことになった。



Open Forum 第17号

## ICTを活用した教育の支援

全国各地に分散する本学学生の修学をサポートするため、本学では教務情報システム(システムWAKABA)などの各種情報システムのサービスをインターネット上で提供している。システムWAKABAは、各学生の学籍情報や履修状況の閲覧、学生生活における各種情報の取得、履修科目の学修を支援するなど、在学生のためのポータル(入口)サイトとして2009年から機能している。加えて、学生全員にメールアドレスが割り振られ、修学に関連する相互連絡を行うことができる。

また、放送授業の履修では、各学期内の決められた期間に1回、担当教員により出題される問題に解答し指導を受ける通信指導が必須となっている。解答は一部の科目を除きシステム

WAKABA上で提出することができ、通信指導に合格することによって単位認定試験の受験資格が得られる。

学部生の卒業研究及び大学院生の研究指導において、研究の方向性の決定や論文執筆指導等のために、定期的に教員と学生で打合せやゼミを実施している。2020年度9月末までは、研究指導のためにOmnijoin(オムニジョイン)Web会議システムを導入していたが、提供業者によるサービス終了及び新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月からはZoomの契約に切り替え、原則としてWeb会議システムを利用した学生指導を行った。

# 社会に向けた教育

## BSキャンパスex(ch.231)



### 生涯学習支援番組

本学は、2018年10月から生涯学習支援のBS231チャンネルを開設し、人生100年時代における社会人の多様な学び直しのニーズに応え、実践的な知の基礎、職業的能力の向上に資する番組により「学び直し」のきっかけにつながる生涯学習支援番組を放送している。

2020年度は、新規121番組を含む、全519番組の生涯学習支援番組を放送し、新型コロナウイルス流行を受け、以下の番組を放送した。

### 2020年度の新規放送番組

16番目の授業 データ構造とプログラミング

“科学”からの招待状 回すと立ち上がりジャンプするゆで卵の不思議

“科学”からの招待状 電気と磁気の不思議な相関：鏡の国のサッカーゲーム

BSキャンパスex特集 保育の学びへの招待

BSキャンパスex特集 転換するまちづくりの仕組み～エアマネジмент～

BSキャンパスex特集 大学入試をどう考えるのか

BSキャンパスex特集 新型コロナウイルス流行を越えて～放送大学教員の視点～

BSキャンパスex特集 鏡の中のミステリー～なぜ左右が反対に見えるのか？～

BSキャンパスex特集 人を対象とする研究の倫理

BSキャンパスex特集 インストラクショナルデザイン入門  
大学授業の効果・効率・魅力を高めるヒント！

BSキャンパスex特集 就学前教育への誘い～子どもの健全な発育のために～

公開講座セレクション 占領期社会教育とナトコ映画

公開講座セレクション 「無意識」の世界の不思議

キャリアアップ講座データサイエンス基礎から応用 第1回～第8回

統計的因果推論の考え方と技術 第1回～第8回

豊かな就学前教育を目指して ～保育・幼児教育スキルアップ講座～ 前編/後編

続・日本の近代化を知る ガイダンス編/第8章～第11章

Japanese Modernization Lecture Series Chapter8～Chapter11

危機の時代に考える 第1回～第15回

家族で楽しむ!サイエンス エコ・フロンティア～自然に学ぶ科学技術

家族で楽しむ!サイエンス 赤ちゃんがいっぱい

効果を高める!遠隔学習支援コンテンツ

放送大学アーカイブス・知の扉 美学・芸術学研究(13)



### ▶危機の時代に考える

新型コロナウイルス感染症の地球規模の流行が続く中、今をどう生きるか、そして状況をどう打開し、コロナ後をどう見据えていくか。放送大学の学長をはじめとする教員が、それぞれの専門分野を踏まえて、危機の問題を考え、学生と市民の皆さんに議論を提起する全15回シリーズ番組。



### ▶BSキャンパスex特集 新型コロナウイルス流行を越えて ～放送大学教員の視点～

新型コロナウイルス感染症と日常的に長期間付き合わなければならないことが予想される中で、学校や心の在り方の変化などこれまでの動きを「ふり返し」、「これから先」に予測される見通しを放送大学教員の視点でとらえる番組。

## インターネット配信公開講座

本学のキャリアアップ支援認証制度に係る公開講座及び生涯学習支援番組の一部などをインターネットにて配信する「インターネット配信公開講座」を2020年に開始した。キャリアアップ支援認証制度2講座、生涯学習支援番組35講座を配信した。

## キャリアアップ支援認証制度

本学が開設する公開講座等により体系的に編成された講習を修了した方に対して独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を実施している。本制度は、様々なニーズに応え受講者のキャリアアップに資する講座を柔軟な仕組みで提供するものであり、本学学生でなくとも受講できる。また、修了

者には、認証状の他、デジタルバッジを発行する。2020年度には、主に小学校教員を対象とした小学校でのプログラミング教育への支援につながるインターネット配信公開講座「小学校プログラミング教育 導入編」と「Scratchプログラミング指導法」を開講した。

## 単位互換の取り組み

本学は、「他大学との単位互換の推進により、わが国の大学教育の改善に資すること」を設置目的の一つに掲げている。本学と単位互換協定を締結している大学及び短期大学は398大学あり、日本国内の全大学・短期大学の約36%にのぼる。さらに9大学院、16校の高等専門学校とも単位互換協定を締結しており(2020年11月1日現在)、大学等から受け入れる学生数は年間で約4,700名(延べ約10,000科目)に達する。

て、多様で柔軟な教育プログラムの編成(文理横断・学修の幅を広げる教育等)や大学の多様な「強み」の強化など、わが国の大学等の教育課程の充実に寄与している。

2020年度には、新たに27校の大学等と単位互換協定を締結し、協定締結校は合計429校となった。

### 2020年度に締結した単位互換協定締結校

県立広島大学	広島市立大学	エリザベト音楽大学
近畿大学工学部	比治山大学	広島経済大学
広島国際学院大学	広島修道大学	広島女学院大学
広島文化学園大学	広島都市学園大学	山陽女子短期大学
比治山大学短期大学部	広島文化学園短期大学	呉工業高等専門学校
嵯峨美術大学	嵯峨美術短期大学	京都先端科学大学
聖カタリナ大学	聖カタリナ大学短期大学部	豊橋創造大学大学院
東京音楽大学	帝京大学	太成学院大学
富山大学	帝塚山大学	名古屋芸術大学

平成30年11月26日の第119回中央教育審議会総会で取りまとめられた「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」において「複数の大学等の人的・物的リソースを効率的に共有することで、一つの大学では成し得ない多様な教育プログラムを提供することができるよう、単位互換等の制度運用の改善を行うことも必要」と記載されたことを受け、国から単位互換制度の運用に係る基本的な考え方が示された。本学では、基本的な考え方に則り単位互換を推進することによ

## 専修学校との連携協力

本学では、専修学校との連携協力として、専修学校に在学しながら本学にも入学し、本学の科目を併修する制度を実施している。時間と場所を問わずに学ぶことのできる本学の特徴を活かし、専修学校での学習と組み合わせることで、本学卒業により学士(教養)の学位を取得することが可能である。

2020年度には、新たに4校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、連携協力校は合計54校となった。

### 2020年度に締結した連携協力校(専修学校)

国際理工情報デザイン専門学校	鹿児島中央看護専門学校
神戸リハビリテーション福祉専門学校	唐津ビジネスカレッジ



## 特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その専門分野について深く掘り下げて講義を行い、テレビ及びラジオ番組として制作し、テレビ講義は生涯学習支援番組のシリーズの1つとして

BS231チャンネルで、ラジオ講義はBS531チャンネルでそれぞれ放送している。

### 2020年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	北里大学特別栄誉教授 大村 智 女優、科学番組プログラム アシスタント 黒田 有彩	TV
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイソトポマー～	東京工業大学地球生命研究所 特任教授 吉田 尚弘 フリーアナウンサー 岩田 まこ都	TV
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	東京大学名誉教授 跡見 順子 能楽師 森 常好 フリーアナウンサー 高松 祥子	TV
手本をはなれて ～”想画”を生んだ奥出雲の地から～	前島根学習センター所長 佐々 有生 農業 青木 宗一 声優、ナレーター 加藤 沙織 声優 宮林 康 声優 青木 強	TV
レゲット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	イリノイ大名誉教授 アンソニー・レゲット 放送大学教授 松井 哲男 京都大学名誉教授 佐藤 文隆 前東京大学教授 福山 寛 アナウンサー 青谷 優子	TV
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	健康社会学者・文藝家 河合 薫 ラッシュジャパン人事部長 安田 雅彦	ラジオ
脳脊髄液減少症と児童・生徒	国際医療福祉大学熱海病院教授 篠永 正道	ラジオ
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	東京工業大学地球生命研究所 特命教授 丸山 茂徳 放送大学プロデューサー 高比良 一道	ラジオ

### 2020年度放送の特別講義(新規開設特別講義は除く)

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～	詩人 林 浩平	TV
マヤの宇宙観～聖なる時間と十字架～	立教大学名誉教授 実松 克義/放送大学准教授 佐藤 仁美	TV
『おくのほそ道』の真髓～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学教授 魚住 孝至	TV
笑いの哲学～コトで分析～	日本笑い学会会長、関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	TV
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	TV
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	TV
文人精神の系譜—与謝蕪村から吉増剛造まで—	恵泉女学園大学特任教授・詩人 林 浩平	TV
森鷗外と明治の青春—『青年』を中心に—	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	TV
古代アンデス文明と日本人	放送大学教授 稲村 哲也/東京大学名誉教授 大貫 良夫	TV
薩摩硫黄島の熊野三山と『平家物語』	國學院大學教授 野中 哲照	TV
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学客員教授 関根 千佳/放送大学教授 広瀬 洋子	TV
公共人類学—人類学の社会貢献—	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	TV
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	TV
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋 東京大学特任教授 辻 哲夫/放送大学教授 田城 孝雄	TV
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし ～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院専任講師 石丸 徑一郎	TV
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	TV

2020年度放送の特別講義(新規開設特別講義は除く)

講義題目名	出演講師 * 開設当時の肩書	メディア
気仙沼 ESD の軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任研究員(主幹研究員) 及川 幸彦	TV
摩擦の世界	青山学院大学教授 松川 宏/筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	TV
ブラックホール ーばく大なエネルギーの発生源ー	東京大学教授 牧島 一夫/東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	TV
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	TV
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別栄誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	TV
トップアスリートのメンタルに学べ	スポーツメンタルトレーニング上級指導士・ソウル五輪シンクロデュエット銅メダリスト 田中ウルフエ京	TV
エンジニアが映像で挑む!〜トップアスリート強化〜	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部専門研究員 三浦 智和	TV
イギリスの科学教育に学ぶ	東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 東京工業大学名誉教授・津田塾大学客員教授 酒井 善則	TV
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構時空標準研究室長 花土 ゆう子	TV
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ 〜富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト〜	富山大学大学院准教授 中林 美奈子 放送大学教授 田城 孝雄	TV
海底に探るエネルギー資源〜日本海・メタンハイドレート〜	明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 松本 良	TV
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康ー高所適応とグローバル化による攪乱ー	放送大学特任教授 稲村 哲也/京都大学連携教授 奥宮 清人	TV
脳波で動く 1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城大学名誉教授 白石 昌武	TV
遷移金属触媒の魔法の力 ~サステイナブルな21世紀への鍵~	パデュー大学特別教授 根岸 英一	TV
ウナギ 大回遊の謎を追う	日本大学教授 塚本 勝巳	TV
通信教育で人生が変わった〜女優・作家 中江有里〜	女優・作家 中江 有里	ラジオ
箏曲の世界 ~宮城道雄の残したもの~	元東京藝術大学教授・学術博士 安藤 政輝	ラジオ
オリンピックボランティアの世界 ①誕生と貢献の歴史	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	ラジオ
オリンピックボランティアの世界 ②東京で夢をかなえる	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	ラジオ
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫/東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫/東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ
人間発達と初期環境	お茶の水女子大学名誉教授 藤永 保	ラジオ
私、あきらめない!〜車いす女優・萩生田千津子の原点〜	女優 萩生田 千津子	ラジオ
私、舞台を降りない!〜車いす女優・萩生田千津子の世界〜	女優 萩生田 千津子	ラジオ
研究不正と研究倫理	放送大学教授 児玉 晴男	ラジオ
DV被害者の声〜求められる支援のありかたとは〜	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代	ラジオ
病・人・社会(1)〜統合失調症が教えること〜	東洋大学教授 白石 弘巳	ラジオ
病・人・社会(2)〜人を支援する人が受け取るもの〜	東洋大学教授 白石 弘巳	ラジオ
困ったら、頼っていいんだよ〜孤立する子どもたちに私たちができること〜	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	ラジオ
急増するうつ病:人間の孤独とコミュニティの視点から	放送大学副学長 宮本 みち子/放送大学教授 石丸 昌彦 放送大学教授 広瀬 洋子	ラジオ
インド・現代世界の縮図 ー経済成長と民主主義ー	元アジア経済研究所地域研究部長 佐藤 宏	ラジオ
医療・健康で地域をつなぐ	大阪産業大学教授 佐藤 真治	ラジオ
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	ラジオ
ライフ・イノベーションからの利益の帰属と倫理	政策研究大学院大学教授 隅藏 康一	ラジオ
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	ラジオ
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	ラジオ
障害者差別解消法と差別を解消するための研修について	放送大学教授 広瀬 洋子/国際協力機構国際協力専門員 久野 研二 日本障害者リハビリテーション協会研修課課長 奥平 真砂子	ラジオ
オーラル・ヒストリーの課題と展望	放送大学客員教授 御厨 貴 東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出	ラジオ
「まぜこぜ社会」が世界を変える	女優・一般社団法人Get in touch理事長 東 ちづる 放送大学客員教授 井上 洋士	ラジオ
患者とともに生きる医療	東京大学名誉教授(三井記念病院院長) 高本 眞一	ラジオ
幕末の日本人が見たアメリカ〜万延元年遣米使節の異文化理解〜	大正大学名誉教授 鈴木 健次	ラジオ
科学は文化だ ー科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会ー	日本科学未来館広報・普及課長 富田 知宏 放送大学教授 奈良 由美子 文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎	ラジオ

## 2020年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 * 開設当時の肩書	メディア
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	ラジオ
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	ラジオ
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学—①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学—②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～交替劇プロジェクトの探究～	高知工科大学名誉教授 赤澤 威	ラジオ
物理学における対称性とその破れ	高エネルギー加速器研究機構特別名誉教授 小林 誠	ラジオ
漢詩をうたう	和光大学講師 荘 魯迅	ラジオ

## 一般向け講演会

本学で培われた教育並びに研究成果は、広く社会に提供され、大学と社会相互のさらなる発展が期待される。本学では、主に全国の学習センターを通じて、一般市民を対象とした公開講

演会等を開催し、その知識を社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

## 2020年度公開講演会

所属	講師	テーマ	主催SC	共催等	方式	日時
学長	來生 新	人生100年時代の生涯学習と放送大学	広島		対面	10月31日
生活と福祉	教授 井出 訓	認知症の基礎知識	新潟	新発田市	対面	10月25日
	教授 田城 孝雄	地域医療について	静岡		対面とWebの併用	11月1日
心理と教育	教授 森 津太子	コロナ禍と社会心理学	岐阜		対面とWebの併用	11月29日
		コロナ禍と社会心理学	静岡(浜松)	岐阜学習センター	対面とWebの併用	11月29日
社会と産業	教授 松原 隆一郎	「共有資本」について～私でも公でもない共(コモン)の弱体化が日本を衰退させている	東京文京		Web	2月7日
人間と文化	教授 近藤 成一	中世常陸へのタイムトリップ —古文書をやさしく読んでみる—	茨城	茨城県立図書館	対面	9月19日
情報	教授 中川 一史	AI時代の子ども・授業・学校	東京渋谷		Web	8月22日
		スマホネイティブ時代の子ども・学校・授業	佐賀	佐賀県女性と生涯学習財団、佐賀県立図書館	対面	12月27日
自然と環境	教授 加藤 和弘	里山ではなぜ豊かな生物多様性が保たれてきたのか	茨城	茨城県立図書館	Web	2月20日
	准教授 大森 聡一	地球史と地球観の変化	東京文京		Web	2月20日
三重学習センター	所長 清水 真	科学史から見えてくる科学:エピソードを交えて	三重		対面	8月20日
滋賀学習センター	所長 平井 肇	スポーツと多文化共生社会 —ラグビー日本代表から見える景色—	滋賀		対面	2月7日
鳥取学習センター	所長 小林 一	「日本農業の農法変革を考える」	鳥取	鳥取県民カレッジ連携講座	対面	6月30日
		「自由貿易体制下の鳥取県農業」—農業経営の進路を考える—	鳥取	鳥取県民カレッジ連携講座	対面	12月16日
		「TPP11後の日本農業」—農業経営の進路を考える—	鳥取	鳥取県民カレッジ連携講座	対面	1月6日
鳥根学習センター	所長 田坂 郁夫	地球温暖化と気象災害	山口		対面	10月4日
		地球温暖化と気象災害	鳥根	安来市	対面	10月23日
		地球温暖化と気象災害	鳥根	出雲市	対面	11月1日
高知学習センター	所長 深見 公雄	海の中には"非常識"がいっぱい ～あなたは黒潮の正体を知っていますか?～	高知		対面	12月1日
大分学習センター	所長 古城 和敬	ほめない、叱らない、勇気づけのコミュニケーション	大分	大分県立図書館	対面	9月5日

## オープンコースウェア(OCW)

OCWは「大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開する活動」であり、1999年米国マサチューセッツ工科大学(MIT)から始まったものである。学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、OCWの理念に賛同し、2010年にインターネットによる配信を開始した。

現在、本学で開講する放送授業(テレビ及びラジオ)のほとんどの科目(全15回番組)において、1番組または全15番組を本学学生以外の方にもインターネットにて公開している。また、一部の特別講義も公開している。

### 2020年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目	
科目名	講師
コミュニティがつなぐ安全・安心('20)	林 春男
災害看護学・国際看護学('20)	神崎 初美/西上 あゆみ
教育調査の基礎('20)	藤田 武志/西島 央
新時代の組織経営と働き方('20)	原田 順子/若林 直樹
日本語学入門('20)	滝浦 真人
中国と東部ユーラシアの歴史('20)	佐川 英治/杉山 清彦
身近なネットワークサービス('20)	葉田 善章
場と時間空間の物理('20)	松井 哲男/岸根 順一郎
今日のメンタルヘルス('19)	石丸 昌彦
社会保障の国際動向と日本の課題('19)	埋橋 孝文/居神 浩
教育社会学概論('19)	岩永 雅也
経営情報学入門('19)	木嶋 恭一/岸 眞理子
エネルギーと社会('19)	迫田 章義/堤 敦司
博物館概論('19)	稲村 哲也
Webのしくみと応用('19)	森本 容介/伊藤 一成
生命分子と細胞の科学('19)	二河 成男
宇宙の誕生と進化('19)	谷口 義明
地域コミュニティと教育('18)	玉井 康之/夏秋 英房
博物館情報・メディア論('18)	稲村 哲也/近藤 智嗣
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明
コンピュータとソフトウェア('18)	辰己 丈夫/中谷 多哉子
地球温暖化と社会イノベーション('18)	六川 修一/向井 人史
住まいの環境デザイン('18)	梅干野 晃/田中 稲子
人体の構造と機能('18)	坂井 建雄/岡田 隆夫
初歩からの化学('18)	安池 智一/鈴木 啓介
レジリエンスの諸相('18)	奈良 由美子/稲村 哲也
疾病の成立と回復促進('17)	岡田 忍/佐伯 由香
現代社会の児童生徒指導('17)	古賀 正義/山田 哲也
家族と高齢社会の法('17)	川島 志保/関 ふ佐子
現代の内部監査('17)	齋藤 正章/蟹江 章
日本の古代中世('17)	佐藤 信/近藤 成一
コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章
問題解決の数理('17)	大西 仁
物理の世界('17)	岸根 順一郎/松井 哲男
社会福祉への招待('16)	岩田 正美
世界文学への招待('16)	宮下 志朗/小野 正嗣
ダイナミックな地球('16)	大森 聡一/鳥海 光弘
入門微積分('16)	石崎 克也
量子と統計の物理('15)	米谷 民明/岸根 順一郎
環境の可視化('15)	梅干野 晃/中村 恭志
食健康科学('15)	小城 勝相/清水 誠

ラジオ授業科目	
科目名	講師
リスク社会の家族変動('20)	田間 泰子
ライフステージと社会保障('20)	丸谷 浩介
学校と法('20)	坂田 仰
現代東アジアの政治と社会('20)	家近 亮子
日本の近世('20)	杉森 哲也
AIシステムと人・社会との関係('20)	山口 高平/中谷 多哉子
エントロピーからはじめる熱力学('20)	安池 智一/秋山 良
朝鮮の歴史と社会-近世近代('20)	須川 英徳
健康への力の探究('19)	戸ヶ里 泰典/中山 和弘
思春期・青年期の心理臨床('19)	大山 泰宏
コミュニケーション学入門('19)	大橋 理枝/根橋 玲子
統計学('19)	藤井 良宜
ヘルスリサーチの方法論('19)	井上 洋士
成人の発達と学習('19)	岩崎 久美子
コンピューティング('19)-原理とその展開-	萩谷 昌己
現代物理の展望('19)	岸根 順一郎/松井 哲男
感染症と生体防御('18)	田城 孝雄/北村 聖
看護管理と医療安全('18)	大島 弓子/飯島 佐知子
日本仏教を捉え直す('18)	末木 文美士/頼住 光子
現代を生きるための化学('18)	橋本 健朗
解析入門('18)	河添 健
心理と教育へのいざない('18)	田中 統治/向田 久美子/佐藤 仁美
福祉政策の課題('18)	大曾根 寛
情報学の技術('18)	中谷 多哉子/辰己 丈夫
睡眠と健康('17)	宮崎 総一郎/林 光緒
環境問題のとらえ方と解決方法('17)	岡田 光正/藤江 幸一
日本文学の名作を読む('17)	島内 裕子
線型代数学('17)	隈部 正博
生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
音楽・情報・脳('17)	仁科 エミ/河合 徳枝
看護学概説('16)	井出 訓/井上 洋士
CGと画像合成の基礎('16)	浅井 紀久夫
政治学へのいざない('16)	御厨 貴/山岡 龍一
音を追究する('16)	大橋 理枝/佐藤 仁美
精神医学特論('16)	石丸 昌彦/広瀬 宏之
計算論('16)	隈部 正博
道を極める-日本人の心の歴史('16)	魚住 孝至
教育学入門('15)	岡崎 友典/永井 聖二
韓国朝鮮の歴史('15)	吉田 光男
数理科学('15)	石崎 克也



## 2020年度インターネット無償公開特別講義等一覧

テレビ特別講義	
講義名	講師
手本をはなれて ～”想画”を生んだ奥出雲の地から～	佐々 有生／青木 宗一
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	大村 智
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイソトポマー～	吉田 尚弘
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	跡見 順子
レゲット教授が見た日本～ ノーベル賞科学者による異文化交流～	アンソニー・レゲット
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～」	林 浩平
マヤの宇宙観～聖なる時間と十字架～	実松 克義／佐藤 仁美
気仙沼 ESDの軌跡： 持続可能な社会の創造をめざして	及川 幸彦
摩擦の世界	松川 宏／氏家 恒太郎
『おくのほそ道』の真髄 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	魚住 孝至
笑いの哲学～コトで分析～	森下 伸也
年縞が語る地球環境史	安田 喜憲
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン 交響曲第九演奏会 ～東京藝術大学奏楽堂～	山本 純／介／茂木 一衛
文人精神の系譜 ～与謝蕪村から吉増剛造まで～	林 浩平
ノーベル賞科学者の軌跡 I 私が感化された教育とは	益川 敏英／梶田 隆章
ノーベル賞科学者の軌跡 II どう鍛えられ研究を深めたか	益川 敏英／梶田 隆章
森鷗外と明治の青春 ～『青年』を中心に～	島内 裕子／山崎 一穎
エンジニアが映像で挑む！ ～トップアスリート強化～	三浦 智和
イギリスの科学教育に学ぶ	市村 禎二郎／酒井 善則
正確な時計は基礎科学を開く窓	細川 瑞彦／花土 ゆう子
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ～富山市・高齢社会デザイン 開発プロジェクト～	中林 美奈子／田城 孝雄

テレビ特別番組	
番組名	
未来を拓く！超精密・微細技術のDNA ～長野・諏訪地域～	
科学技術立国への挑戦 ～理化学研究所の100年を通して～ 「国民科学研究所」はこうして生まれた	
科学技術立国への挑戦 ～理化学研究所の100年を通して～ 科学と科学を結びつける	
科学技術立国への挑戦 ～理化学研究所の100年を通して～ 科学の未来を考える	

ラジオ特別講義	
講義名	講師
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	河合 薫
脳脊髄液減少症と児童・生徒	篠永 正道
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	丸山 茂徳
研究不正と研究倫理	児玉 晴男
DV被害者の声 ～求められる支援のありかたとは～	須藤 八千代
科学は文化だ ～科学技術週間60年の変遷にみる 日本の科学と社会～	富田 知宏／奈良 由美子
通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	中江 有里
病・人・社会(1) ～統合失調症が教えること～	白石 弘巳
病・人・社会(2) ～人を支援する人が受け取るもの～	白石 弘巳
天文学を魅力的に伝えたい	縣 秀彦
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	安藤 政輝
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに 私たちができること～	森山 誉恵
急増するうつ病： 人間の孤独とコミュニティの視点から	宮本 みち子／石丸 昌彦 広瀬 洋子
インド・現代世界の縮図 ～経済成長と民主主義～	佐藤 宏
医療・健康で地域をつなぐ	佐藤 真治
現代社会における イノベーションの意味	吉川 智教
ライフ・イノベーションからの 利益の帰属と倫理	隅藏 康一
オリンピックボランティアの世界① 誕生と貢献の歴史	市居 愛
オリンピックボランティアの世界② 東京で夢をかなえる	市居 愛
編集者漱石①編集者子規	長谷川 郁夫／草光 俊雄
編集者漱石②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫／草光 俊雄
終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏
江戸農書からみる現代農業と日本社会	徳永 光俊
ヒューマンインタフェース技術のタネは 日常生活のなかにある	黒須 正明
食の安全と環境汚染物質 ～メチル水銀を例に～	佐藤 洋
脳と心 - 分子生物学者がみた精神医学 - ①部品の科学と全体としての脳	糸川 昌成
脳と心 - 分子生物学者がみた精神医学 - ②家族の旅から回復を体験すること	糸川 昌成

## 放送大学における研究

### 外部資金による研究

本学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金を積極

的に得て研究を進めている。2020年度に放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

#### 放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発（採択順）

所属	職名	氏名	研究課題名
社会と産業	教授	児玉 晴男	Webキャストコンテンツのマルチデバイスアプリ開発に関する研究
情報	教授	広瀬 洋子	音声認識システムを活用したメディア教材の字幕化及び多言語化の研究
情報	教授	仁科 エミ	パソコン視聴に適合した放送教材の音質とその改善の研究
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	博物館と連携した遠隔教育システムの確立に向けた拠点形成
自然と環境	准教授	大森 聡一	インターネットを利用した機器分析実験教育システムの開発
	副学長 教授	岩永 雅也	地方における高校生及び若年社会人の学習ニーズに対応した遠隔高等教育機関の活用方策に関する研究
心理と教育	教授	岩崎 久美子	成人学習者のセグメント化による学習ニーズに応じた学習環境整備に関する研究
社会と産業	教授	坂井 素思	放送大学教材制作と地域貢献のインタラクティブ活動に関する研究事業
情報	准教授	辻 靖彦	保育者養成校におけるオンライン授業と個人練習を支援する学習教育システム開発のためのピアノ初級者個人練習モデルの構築

#### 放送大学教育振興会助成による研究：教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業

所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	教授	苑 復傑	感染症流行に伴う大学遠隔授業の導入とその中長期的含意一日米中比較

#### 放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	岡田 光正	放送大学の連携協力の推進による学生増加方策について
	副学長	岡田 光正	学習教育戦略研究所における研究の推進

#### 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（研究種目・研究終了予定日順）

所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
社会と産業	教授	柳原 正治	基盤B	外交官、国際法学者、そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤B	キラル物質における対称性の破れと電磁応答
情報	教授	中川 一史	基盤B	国語科「読むこと」領域の学習者用デジタル教科書を活用した学習指導モデルの開発
人間と文化	教授	野崎 歓	基盤B	「作者」の死と再生：フランス・ロマン主義文学の現代的意義をめぐる総合的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	学習者の表出動作から心的状態を推定し集計・フィードバックするシステムの開発

## 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(研究種目・研究終了予定日順)

所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
心理と教育	教授	森 津 太 子	基盤B	ナッジとしての"見つめる目"効果:仮想および実空間における社会実験
愛知学習センター	特任教授	氏家 達夫	基盤B	胎児期に原発事故を経験した福島の子どものための小学校への適応についての発達の研究
心理と教育	特任教授	小川 正人	基盤B	労働法制改編に伴う教員の新たな勤務時間管理方策の影響と課題に関する調査研究
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	看護実践に特化した健康生成論とストレス対処力概念SOCに関する応用モデルの開発
人間と文化	教授	河原 温	基盤B	中近世ヨーロッパ社会における合意形成の起源と展開—合議制・代議制の理念と現実—
情報	教授	仁科 エミ	基盤B	スマートフォンの負の影響を緩和するモバイルハイパーソニックシステムの開発と評価
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤B	看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究
情報	教授	山田 恒夫	基盤B	公正で個別最適化された生涯学習を実現するデジタル・エコシステムの研究
情報	教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力感覚再現の高度化
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市の大規模樹林地は核となる生息場所となり得るのか
人間と文化	教授	滝浦 真人	基盤C	近現代日本語におけるポライトネス意識の通時的変化の研究:敬語と授受表現をめぐって
客員	客員教授	内堀 基光	基盤C	サラワク・イバン社会における居住空間の現代的再編成に見る社会的強靱性
京都学習センター	特任教授	杉島 敬志	基盤C	オーストロネシア諸族における在来政体の比較研究—東南アジア島嶼部を中心に—
心理と教育	特任教授	田中 統治	基盤C	高等学校の「学びの基礎診断」によるカリキュラム・マネジメントの特徴と課題
自然と環境	教授	安池 智一	基盤C	ホットキャリア生成機構の理解に基づくプラズモンケミストリーの深化
生活と福祉	教授	下夷 美幸	基盤C	子と離別した父親の生活実態と扶養意識に関する実証的研究
情報	特任教授	三輪 眞木子	基盤C	高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発と教育方法の提案
心理と教育	准教授	向田 久美子	基盤C	児童書に見る文化的スクリプトとその媒介者としての親:日中米の比較研究
心理と教育	教授	進藤 聡彦	基盤C	ルールと操作的知識の構造化が教科学習の促進に及ぼす効果と教材開発
情報	教授	中谷 多哉子	基盤C	概念モデルに基づくアクターのアクセス権限を考慮した要求獲得に関する研究
情報	教授	伏見 清香	基盤C	被災館支援システムによるミュージアムの情報と空間の関係性と相互作用に関する研究
東京文京学習センター	特任教授	林 徹	基盤C	フォーリナー・トークから見るドイツのトルコ系移民コミュニティの言語的特徴
情報	准教授	辻 靖彦	基盤C	大学教員の大規模実態調査に基づくICT活用度診断モデル構築の実証的研究
自然と環境	教授	石崎 克也	基盤C	差分方程式の複素領域における研究とその応用について
情報	教授	浅井 紀久夫	基盤C	技能伝承のための分散協調訓練での深層学習による触力覚再現の個人化と再校正への対応
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	基盤C	骨伝導を利用した超広帯域音響による深部脳賦活法の研究と実用検討
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤C	新たな社会教育主事講習へのファシリテーション技法導入の有効性に関する基礎的研究
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	国際A	脳機能解析に基づくセマンティック騒音評価システム
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	若手B	先進国間協調体制の形成と変容:主要国首脳会議における日本外交、1975-1983
人間と文化	教授	大村 敬一	新学術領域研究 (研究領域提案型)	アメリカ大陸極北圏での人類の認知技能の発達に関する民族認知考古学的研究
情報	教授	加藤 浩	挑戦	主体的問題解決能力育成のための漸進的目標形成モデルを用いた学習支援システムの構築
人間と文化	特任教授	稲村 哲也	挑戦	山岳高所・遊牧地域における遠隔教育の可能性

## その他、民間研究財団等の助成で行っている研究

### その他外部資金助成による研究(本学の教員が代表のもののみ)

所属	職名	氏名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
生活と福祉	教授	田城 孝雄	公益財団法人 在宅医療助成勇美記念財団	自主事業	在宅医療・地域包括ケアシステム推進のための人材育成研修
心理と教育	教授	森 津 太 子	公益財団法人 日本心理学会	新型コロナウイルス感染拡大に 関連した実践活動及び研究	遠隔での心理学教育に関する需要調査と インフラの構築—心理学実習を中心に—

## 学習教育戦略研究所における研究

学習教育戦略研究所は、学習や教育、放送大学学園の経営について、教員と事務職員とが協働で課題解決に向けた活動を行う新しい形の研究組織として2018年度に設置された。本学園が保有する膨大な学習・教育情報の分析等を通じて、最先端のICTも含め、より効果的な学習・教育方法の調査・研究や、本学園の経営改善に資する各種情報の収集・分析、それら

成果の活用等を行うことにより、変化する社会ニーズへ迅速に対応し、本学園や我が国の高等教育の充実発展に寄与することを目的としている。

2020年度には、教職員からの提案を受け、次の研究課題を実施した。

### 研究課題(2020年度実施採択順)

所属	職名	氏名	研究課題
石川学習センター	所長	平田透	学習センターの将来機能に関する分析
情報コース	教授	中谷多哉子	技術士の継続研鑽制度に関する放送大学の協力可能性について
社会と産業コース	教授	松井美樹	技術者に対する初期専門能力開発教育と放送大学授業とのマッチングに関する調査研究
人間と文化コース	特任教授	稲村哲也	放送大学博物館設立・「博物館実習」科目新設に向けての基礎的研究
情報コース	教授	浅井紀久夫	データサイエンス教育のためのオンライン講座の試作
情報コース	教授	山田恒夫	生涯学習支援番組・オンライン講座で使用するデジタルバッジの基本設計に関する研究
情報コース	准教授	秋光淳生	CBT導入による単位認定試験の実施可能性に関する総合調査
東京文京学習センター	所長	林徹	GPS情報を利用した学生募集広告のスマートフォンへの自動配信の有効性調査・分析
岡山学習センター	所長	松本俊郎	地域ネットワークを活用した放送大学及び岡山学習センターにおける機能強化方策の研究・調査プロジェクト
香川学習センター	所長	大平文和	地方の都市域における、学生募集広告のスマホへの自動配信の有効性検証
	副学長	池田龍彦	放送大学における聴覚障がい学生への情報保障に関する研究
臨床心理学プログラム	准教授	佐藤仁美	臨床心理士・公認心理師要請における、通信制大学の役割メディアを介した、学生-教員の双方向の授業体制づくりにむけて
生活と福祉コース	教授	戸ヶ里泰典	人を対象とする研究倫理に関する教育プログラムの開発の試み
情報コース	教授	青木久美子	2020年度第1学期面接授業のWeb会議方式等による代替開講の実施状況に関する調査研究
心理と教育コース	教授	森津太子	「心理学実験」のWeb面接授業を継続化するための調査とそれに基づくインフラの整備・拡充
石川学習センター	所長	平田透	地域学習センターの教育資源相互活用に関する研究調査
情報コース	教授	山田恒夫	マイクロ credenシャル実現に必要なデジタルバッジの高度化および機関間連携システムの構成に関する研究
情報コース	教授	芝崎順司	データサイエンスのモデルカリキュラム準拠リテラシーレベルの準備及び補完学習としてのリメディアル教育のニーズや課題に関する調査
人間と文化コース	特任教授	稲村哲也	大学博物館設立の意義・方法・課題に関する実践的研究
公認心理師教育推進室	教授	桑原知子	放送大学における公認心理師教育の推進に関する研究
生活と福祉コース	教授	関根紀子	生涯学習のための健康管理リスクマネジメントに関する調査研究 -COVID-19による健康・生活・学習を巡る意識と行動の変容-

## 放送大学研究年報

『放送大学研究年報』には、放送大学の専任教員の研究成果が発表されていて、2020年版(第38号)は2021年3月に発行された

放送大学研究年報  
(第38号)





## 2020年度放送大学研究年報(第38号)著者及び論題一覧

著者	論題
石井 祥子、奈良 由美子、稲村 哲也、鈴木 康弘、高橋 博文、スヘー・バトトルガ、ビャンバジャブ・ナラマングハ、ダンガー・エンフタイワン、オイドブ・スフバートル、ケレド・ハスエリドン	モンゴルにおけるレジリエンス強化のための防災啓発とリモート教育
山田 知子	救護法施行前後における東京市方面委員制度の実際とその限界 —取扱事例を手がかりに—
波田野 茂幸	臨床心理学教育における教育メディアを活用した実習教育の可能性について
青山 昌文	デイドロ美学における古代と近代 —デイドロ演劇論の無矛盾的一貫性について—
稲村 哲也、アラン・ハイメ、市木 尚利、木村 友美	グアテマラ高地キチエ・マヤ社会のコフラディアとサン・シモン信仰:スニル村の事例
稲村 哲也、市木 尚利、アラン・ハイメ、木村 友美	グアテマラ高地におけるマヤ儀礼とチマン(儀礼執行者)のイニシエーション
稲村 哲也	放送大学博物館の可能性と意義:展示会開催の蓄積および博物館設立に向けた調査を通じて
河原 温	15世紀ブルッへのエリート市民のアイデンティティ形成とブルゴ・ニコ公権力 —ピーテル・ブラーデリンの事例を中心に—
芝崎 順司	オンデマンド授業におけるモバイル端末を利用した双方向型ビデオ視聴システムの利用と評価
辻 靖彦、芝崎 順司	放送大学の学習センターにおける学習支援の取り組みと学習コミュニティに関する実態調査
佐藤 仁美	心理臨床における実習系Web授業づくりにむけて ~授業空間と共同注視の視点から~
伊藤 匡	非対面式カウンセリングの検討と展望
北原 知典	現代の心理療法における「コミット」をめぐる諸相について
バルジョ・ガレイ、ロブザン・ドルジ、河合 明宣	ブータン王国における地方行政改革:Kanglung Geogの事例
大橋 理枝	「教養学部」であるために —新型コロナウイルス関連YouTube動画作成、及びBS231放送番組制作の実践報告を起点に—
島内 裕子	『前賢故実』に描かれた文学者たちの肖像

## 研究成果の発表・普及【書籍】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍編集・執筆、及び辞書・辞典などの編纂を行っている。これらの書籍

は、より専門的かつ先進的な内容を含んでおり、各教員が日々取り組んでいる独自の研究テーマや研究活動の成果である。

## 2020年度研究成果の発表・普及【書籍】

所属	氏名	書籍名、辞書・辞典名	出版社	出版年月
生活と福祉	石丸 昌彦	精神疾患とは何だろうか	左右社	2021年2月
	関根 紀子	パワーズ運動生理学: 体力と競技力向上のための理論と応用	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2020年8月
		令和元年度 体力・運動能力調査報告書	スポーツ庁	2020年10月
	山内 豊明	看護必要度 第8版	日本看護協会出版会	2020年4月
訪問看護アセスメント・ハンドブック		中央法規出版株式会社	2020年9月	
診断と治療の手技		診断と治療社	2021年3月	
心理と教育	小川 正人	解説 教育六法	三省堂	2021年2月
	倉光 修	自閉症スペクトラム症のある青年・成人への精神療法的アプローチ(監修)	金子書房	2021年3月
	進藤 聡彦	人間教育の教授学(分担)	ミネルヴァ書房	2021年1月
社会と産業	児玉 晴男	『先端技術・情報の企業化と法』(分担執筆:1章3節 科学研究の不正問題と研究倫理、1章4節 オープンサイエンスの法的課題とその対応、1章5節 科学研究のデュアルユース問題の法的な対応、2章2節 AI研究開発に関する責任の所在について)	文眞堂	2020年5月
		原 武史	「民都」大阪対「帝都」東京 思想としての関西私鉄	講談社学術文庫
		「線」の思考	新潮社	2020年11月
		昭和史がわかるブックガイド(共著)	文春新書	2020年4月
		これからの天皇制 令和からその先へ(共著)	春秋社	2020年11月
	松井 美樹	サプライチェーン・マネジメント	放送大学教育振興会	2021年3月

## 2020年度研究成果の発表・普及【書籍】

所属	氏名	書籍名・辞書・辞典名	出版社	出版年月
社会と産業	松原 隆一郎	荘直温伝 忘却の町高梁と松山庄家の九百年	吉備人出版	2020年4月
	柳原 正治	社会と産業の倫理(第4章)	放送大学教育振興会	2021年3月
人間と文化	稲村 哲也	Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future (生活と福祉コース奈良由美子教授との共編著)	Springer	2020年8月
	魚住 孝至	日本思想史事典「芸道」「俳諧の世界」(分担執筆)	丸善出版	2020年4月
		宮本武蔵-「兵法の道」を生きる(ハングル版)	AK Communications Inc. (Seoul)	2020年8月
	島内 裕子	響映する日本文学史	左右社	2020年10月
	野崎 敏	Pour une autre littérature mondiale (分担執筆、p.57-72.)	Editions Piquier, Arles, France	2021年2月
ネルヴァル『火の歳たち』(Nerval, Gérard de, 野崎, 敏(担当: 単訳)(原著: ジェラルド・ネルヴァル))		岩波書店	2020年3月	
		文学こそ最高の教養である(分担執筆、p.26-68)	光文社	2020年7月
情報	山田 恒夫	デジタルバッジ 能力を認定するための画期的システム(編著)	インプレス	2020年10月
自然と環境	谷口 義明	ついに見えたブラックホール地球サイズの望遠鏡がつかんだ謎	丸善出版	2020年6月
		天文学者が解説する宮沢賢治『銀河鉄道の夜』と宇宙の旅	光文社新書	2020年7月
		小さなことにあくせくなくなる天文学講座 生き方が変わる壮大な宇宙の話	PHP出版	2021年3月
公認心理師教育推進室	桑原 知子	『事例研究から学ぶ心理臨床』(京大心理臨床シリーズ13)	創元社	2020年4月
		山中康裕の臨床作法	日本評論社	2020年12月
山形学習センター	安田 弘法	博士が愛したジミな昆虫	岩波書店	2020年4月
広島学習センター	山田 隆	Biocommunication of Phages (ISBN 978-3-030-45884-3)(共著)	Springer	2020年7月
愛媛学習センター	加藤 好文	スタインベックのまなざし—我がアメリカ文学・文化研究の原点—	大阪教育図書	2021年1月

## 研究成果の発表・普及【論文】

本学の専任教員及び学習センター所長は、各分野・領域における専門家であり、研究を通じて教育の原動力となる問題追究する力と新たな発見を生み出している。2020年度に発表さ

れた学術研究論文のうち、審査を受け学術雑誌等で公開された論文を紹介する。

## 2020年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
生活と福祉	関根 紀子	Potential roles of neuronal nitric oxide synthase and the PTEN-induced kinase 1 (PINK1)/Parkin pathway for mitochondrial protein degradation in disuse-induced soleus muscle atrophy in adult rats	PLOS ONE 15(12) e0243660 - e0243660	2020年12月
		PPARGC1A rs8192678 and NRF1 rs6949152 Polymorphisms Are Associated with Muscle Fiber Composition in Women.	Genes 11(9)	2020年8月
		Modification of Neuromuscular Junction Protein Expression by Exercise and Doxorubicin.	Medicine & Science in Sports & Exercise 52(7) 1477 - 1484	2020年7月
		Are Genome-Wide Association Study Identified Single-Nucleotide Polymorphisms Associated With Sprint Athletic Status? A Replication Study With 3 Different Cohorts	Int J Sports Physiol Perform 15 1 - 7	2020年1月
山内 豊明		Nursing activities at clinics in rural areas in Japan-gaps between recognition of importance and implementation.	Nagoya Journal of Medical Science, Vol. 82, No. 2, 251-260	2020年5月
		Nurse perceptions of physical assessment skills for detecting acute progression of heart failure.	Japan Journal of Nursing Science, 2020:e12368, 1-19, DOI: 10.1111/jjns.12368	2020年8月
		知の可視化と継承	日本臨床看護マネジメント学会誌、2巻、1-10	2020年9月
		看護師の臨床判断を支える基礎 フィジカルアセスメント教育を例に CAWS血管炎の病態に対する食物繊維の影響	看護教育、61巻9号 応用薬理、99巻1/2号、9-16	2020年9月 2020年10月
吉村 悦郎		Formation of gold nanoparticles by glycolipids of Lactobacillus casei Fumiya Kikuchi, Yugo Kato, Kazuo Furihata, Toshihiro Kogure, Yuki Imura, Etsuro Yoshimura, Michio Suzuki	Scientific Reports 10(1) 6907	2020年4月
		Iron Elution from Iron and Steel Slag Using Bacterial Complex Identified from the Seawater	Materials 14(6) 1477	2021年3月
心理と教育	岩崎 久美子	雇用形態別セグメントに基づく成人の学習活動の特徴	『日本生涯教育学会論集』No.41, pp.13-22.	2020年12月
	小川 正人	「学校の働き方改革と教育行政研究の課題—政策過程における論点と施策選択肢—」	(日本教育行政学会研究推進委員会『教職員の多忙化と教育行政』福村出版 225頁~243頁)	2020年8月
	小林 真理子	妊娠期がん患者の妊娠と治療をめぐる意思決定に関する支援	『周産期医学』50巻9号、1563-1567	2020年7月
		親ががんになった子どもへの学校におけるサポート—冊子の紹介と医療者からのアプローチ—	『緩和ケア』31巻2号、138-142	2020年9月
社会と産業	児玉 晴男	「大学講義のオンライン化の権利問題」	現代思想2020年10月号 特集=コロナ時代の大学 48(14) 85 - 92	2020年9月
		「放送コンテンツのネット配信における法的な対応」	企業法学研究 9(1) 1 - 20	2020年9月

2020年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
社会と産業	白鳥 潤一郎	兼原 信克, 白鳥 潤一郎:対話 戦後75年の日本外交を振り返る	公研 58(8) 38 - 58	2020年8月
	松井 美樹	Effect of information technology-enabled supply chain integration on firm's operational performance	Journal of Enterprise Information Management, DOI: 10.1108/JEIM-10-2019-0332	2020年11月
		The contribution of hard and soft quality management to sustainability performance: An international perspective	Proceedings of the 27th EurOMA Conference, pp. 1572-1580	2020年9月
		The impact of supply chain management practices on performance in Vietnamese and Japanese enterprises	Proceedings of the 14th International Conference on Operations and Supply Chain Management, pp. 37-38	2021年3月
		An Empirical Study of Adaptation to New Technology by Factories	Proceedings of Asia Pacific Conference on Information Management 2020, pp. 50-56	2020年9月
		Stakeholders' Impact on Sustainable Suppliers in Factories	Proceedings of the 51st Annual Conference of the Decision Sciences Institute, pp. 1-13	2020年9月
	松原 隆一郎	無電柱化推進のために	道路問題	2020年8月
	柳原 正治	「安達峰一郎」(近現代史の人物史料情報・追加情報)	『日本歴史』867号、93-95頁	2020年11月
李 鳴	団体信用生命保険の告知義務違反による解除の有効性	法学研究第93巻第11号、pp.103-126	2020年11月	
人間と文化	稲村 哲也	Pastoralism of camelids and the emergence of political power in the northern Peruvian Andes: A discussion featuring archeology from the viewpoint of ethnography.	Sugiyama, S., N. Matsumoto, and C. Garcia-Des Lauriers (eds.) <i>Proceedings of an International Conference in Mexico, February 27-28, 2020 Landscape, Monuments, Arts, and Rituals: Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives</i>	2021年3月
	河原 温	ヨーロッパ中世都市から現代へ—ブルッヘ史を事例として—	都市史研究 7, 70-80頁	2020年7月
	近藤 成一	The "Horse-Race" for the Throne: Court, Shogunate, and Imperial Succession in Early Medieval Japan	Die ‚Alleinherrschaft‘ der russischen Zaren in der ‚Zeit der Wirren‘ in transkultureller Perspektive, Bonn University Press bei V&R unipress 2021, 105-125.	2020年6月
	野崎 敏	Nerval et les paradoxes sur les pyramides	Revue Nerval, n.4 (Classiques Garnier, Paris, France, p. 81-98)	2020年6月
情報	辻 靖彦	田中 功一, 林 麻由美, 小倉 隆一郎, 辻 靖彦, 保育者養成課程のピアノの初学者における個人練習方法の顕在化	音楽教育メディア研究 第7巻 pp.13 - 24	2021年3月
		吉川寿子, 辻 靖彦, Taewoong Kim, 成人学習者の韓国語会話能力向上を目的とした反転授業が言語不安に与える変容—SCAT手法によるケーススタディー	韓国語教育研究 10号 pp.185 - 203	2021年3月
	三輪 眞木子	視覚障害者の健康医療情報ニーズの特性と提供の際の課題	現代の図書館, Vol.58, No.1	2020年7月
	山田 恒夫	Yamada, T.. The New Functions of OER Repositories for Personalized Learning.	IPSI BgD Transactions on Internet Research (TIR), 16 (1), 22-27. [https://austria-forum.org/web-books/tir1601en2020ids/000025]	2020年10月 ・11月
自然と環境	石崎 克也	Hinkkanen A., K. Ishizaki, I. Laine and Kin Y. Lin: Complex oscillation of solutions of a third order ODE	Ann. Acad. Sci. Fenn. Math. 45 (1), 451--466.	2020年11月
		Gundersen G. G., K. Ishizaki and N. Kimura: Restrictions on meromorphic solutions of Fermat type equations	Proc. Edinburgh Math. Soc. 63, 654--665.	2020年3月
	加藤 和弘	Effectiveness of nature reserves for bird conservation in urban parks in Tokyo Katoh, K., Matsuba, M.	Journal of Forestry Research 2021, 1 - 12	2021年1月
		Usage of urban rivers by gulls and cormorants as movement pathways in winter Takeshige, S., Katoh, K.	Ornithological Science 19, 187-201	2020年7月
		Wildlife as a Biomonitoring Model of Terrestrial Cadmium (Cd) Kidneys of Female Wildlife Reflecting the Environmental Cd Nitta, Y., Katoh, K.	Journal of Environmental Information Science 2020(1), 45-55	2020年10月
	谷口 義明	関東地方における細胞性粘菌の出現頻度の季節変化 細野春宏, 加藤和弘, 半本秀博	日本菌学会会報 61(2), 103 - 108	2020年12月
		ALMA uncovers the [C II] emission and warm dust continuum in a z = 8.31 Lyman break galaxy, Bakx, T., et al.	MNRAS, 493, 4294 - 4307	2020年4月
		ALMA band 8 observations of DLA 2233+131 at z = 3.150, Ogura, K., et al.	PASJ, 72, id.29,	2020年4月
		Dual Supermassive Black Holes at Close Separation Revealed by the Hyper Suprime-Cam Subaru Strategic Program. Silverman, J., et al	ApJ, 899, id. 154	2020年8月
		Subaru Hyper Suprime-Cam view of quasar host galaxies at z < 1, Ishino, T., et al.	PASJ, 72, id. 83, 16pp.	2020年10月
The Faint End of the Quasar Luminosity Function at z ~ 5 from the Subaru Hyper Suprime-Cam Survey, Niida, M., et al		ApJ, 904, id. 89, 14pp	2020年12月	
CHORUS. I. Cosmic Hydrogen Reionization Unveiled with Subaru: Overview, Inoue, A. K., et al.		PASJ, 72, id. 107, 17pp	2020年12月	
安池 智一	A puzzling non-detection of [O III] and [C II] from a z ≈ 7.7 galaxy observed with ALMA, Binggeli, C., et al.	AA, 646, id.A26, 13pp	2021年2月	
	S. Tanaka, T. Yoshida, K. Watanabe, Y. Matsumoto, T. Yasuike, M. Petrovic, M Kralj, "Linewidth narrowing with ultimate confinement of an alkali multipole plasmon by modifying surface electronic wave functions with two-dimensional materials"	Physical Review Letters, 125, 126802, (2020)	2020年9月	



## 2020年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名	発表媒体等	発表(出版)年月
公認心理師 教育推進室	桑原 知子	Tomoko Kuwabara, Nobuo Naruiwa, Tetsuya Kawabe, Nanako Kato, Asako Sasaki, Atsushi Ikeda, Shinji Otani, Satoshi Imura, Kentaro Watanabe & Glichiro Ohno, "Human change and adaptation in Antarctica: Psychological research on Antarctic wintering-over at Syowa station"	International Journal of Circumpolar Health, Volume 80 Issue 1 Article: 1886704 Download citation <a href="https://doi.org/10.1080/22423982.2021.1886704">https://doi.org/10.1080/22423982.2021.1886704</a>	2021年2月
		「森田論文に関するコメント—カウンセリングにおける「雑談」	上智大学臨床心理学研究, 43, pp.151-153	2021年1月
		「地葉論文へのコメント—心理療法における「普通」をめぐって—	天理大学カウンセリングルーム紀要 17, pp.131-133	2021年2月
福島学習センター	千葉 悦子	東日本大震災・原発事故から9年目を迎える福島〜コロナ禍の中で—	農村生活研究(通巻159号、1-3頁)	2020年5月
		「村を捨てない」女性たちのエンパワメントと社会教育実践—原発災害に向き合って	農村生活研究(通巻160号、20-25頁)	2021年3月
東京文京学習センター	林 徹	第5章 指示と時間:トルコ語の指示詞şuを手がかりとして	嶋田珠巳・巖治広真(編)「時間と言語」(三省堂書店), pp.75-94.	2021年1月
富山学習センター	門脇 真	Ginger Increases ALDH1A1 Expression and Enhances Retinoic Acid Signaling in a Human Colonic Epithelial Cell Line.	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 66 (5):462-467	2020年5月
		Suppression of Dynamical Network Biomarker Signals at the Predisease State (Mibyou) before Metabolic Syndrome in Mice by a Traditional Japanese Medicine (Kampo Formula) Bofutsushosha.	Evid Based Complement Alternat Med. 2020:9129134	2020年8月
		Therapeutic Benefit in Allergic Dermatitis Derived from the Inhibitory Effect of Byakkokaninjinto on the Migration of Plasmacytoid Dendritic Cells.	Evid. Based Complement. Alternat Med., 2020:9532475	2020年10月
		Interleukin-4 Receptor $\alpha$ Subunit Deficiency Alleviates Murine Intestinal Inflammation In Vivo Through the Enhancement of Intestinal Mucosal Barrier Function.	Front. Pharmacol. , 11:573470	2020年10月
		Isoflavones Suppress Cyp26b1 Expression in the Murine Colonic Lamina Propria.	Biol. Pharm. Bull., 43(12):1945-1949	2020年12月
		Morphological elucidation of short-chain fatty acid receptor GPR41-positive enteric sensory neurons in the colon of mice with dextran sulfate sodium-induced colitis.	Heliyon, 6(12):e05647	2020年12月
		Identification of key pathways and gene expression in the activation of mast cells via calcium flux using bioinformatics analysis.	BIOCELL. 45(2): 395-415	2021年2月
福井学習センター	小野田 信春	A.K. Dutta, N. Gupta, N. Onoda: On finite generation of Noetherian algebras over two-dimensional regular local rings	J. Algebra, 560, 241-265	2020年10月
		K. Inoue, H. Kawai, N. Onoda: Isomorphism classes of commutative algebras generated by idempotents	J. Algebra, Appl.20(2), 2150008, 15pp	2021年2月
三重学習センター	清水 真	M. Shimizu, T. Yamamoto, H. Shindo, I. Mizota, and Y. Zhu, 2,3-Dimethoxy-2,3-dimethyl-1,4-dioxane as a Useful Precursor to 2,3-Dimethylene-1,4-dioxane for [4+2] Cycloaddition Reaction	RSC Adv., 11, (14), 7972-7980 (2021). DOI: 10.1039/d1ra00329a	2021年2月
		M. Shimizu, T. Kawamura, S. Fukumoto, I. Mizota, and Y. Zhu, An Efficient Method for 3,4-Dihydroisoquinolinium Ion Formation, Leading to a Facile Introduction of Nucleophiles	J. Heterocyclic Chem., 58, (3), 751-756 (2021). DOI: 10.1002/jhet.4211	2021年2月
		K. Ota, S. Fukumoto, T. Iwase, I. Mizota, M. Shimizu, and I. Hachiya, Umpolung Reaction of $\alpha$ -Tosylloximino Ester Using a Flow System	Synlett, 31, (19), 1930-1936 (2020). DOI: 10.1055/s-0040-1707265	2020年10月
		M. Shimizu, S. Hata, K. Kondo, K. Murakami, I. Mizota, and Y. Zhu, Preparation and Facile Addition Reactions of Iminium Salts Derived from Amino Ketene Silyl Acetal and Amino Silyl Enol Ether	RSC Adv., 10, (46), 27874-27883 (2020). DOI: 10.1039/D0RA05768A	2020年9月
		I. Mizota, M. Mori, and M. Shimizu, Electrophilic Amination Reactions with 1H-Indazole-3-Carboxylates: Synthesis of Amino Acid Frameworks and 3-Amino-2-Oxindoles	J. Heterocyclic Chem., 57, (7), 3002-3010 (2020). DOI: 10.1002/jhet.4015	2020年7月
		I. Mizota, M. Maeda, K. Imoto, and M. Shimizu, Synthesis of Tetramic Acid Derivatives via Tandem Umpolung Alkylation/Reduction/Cyclization Reaction of $\gamma$ -Hydrazono $\beta$ -Ketoester	Org. Lett., 22, (8), 3079-3083 (2020). DOI: 10.1021/acs.orglett.0c00824	2020年4月
京都学習センター	杉島 敬志	インドネシア・中部フローレスにおける未婚の女性首長をめぐる比較研究—オーストロネシア研究の視点から— その2	『アジア・アフリカ地域研究』20 (1): 32-64	2020年9月
大阪学習センター	西田 正吾	岡部洋一、伊与田功、西田正吾: 放送大学と電気学会—社会と産業の学び—	電気学会誌 140巻, 11号, 716-719, 2020	2020年11月
奈良学習センター	井上 容子	関西における居間での生活行為と水平面照度、照明による消費電力との関係	日本家政学会誌, 第71巻, 第5号, pp.289-301	2020年5月
		住空間における年齢と生活行為を考慮した照明に関する研究—定常順応時における適当な照度と色温度	日本建築学会環境系論文集, 85-776, pp.725-731	2020年10月
		昼光変動緩和のための人工照明調節方式に関する検討(その1)昼光変動に対する生活者の意識と照度変化に対する評価	日本建築学会環境系論文集, 85-777, pp.803-810	2020年11月
		生活行為に求められる明るさと色味に関する研究—若齢者と高齢者の比較	日本建築学会環境系論文集, 86-779 pp.35-42	2021年1月
鳥取学習センター	小林 一	(共著)Linking Rural Livelihoods and Fuelwood Demand from Mangroves and Upland Forests in the Coastal Region of Guinea	Sustainability Challenges in Sub-Saharan Africa I, pp.221-244	2020年9月
広島学習センター	山田 隆	3D structure of three jumbo phage heads	J. Gen. Virol. (101.11, 1487.1-1487.8)	2020年8月
		The complete genomic sequence of the novel myovirus RP13 infecting <i>Ralstonia solanacearum</i> , the causative agent of bacterial wilt	Arch. Virol. (166.2, 651-654)	2021年1月
		In vitro characterization of the site-specific recombination system based on genus Habenvivirus phiRSM small serine integrase	Mol. Genet. Genom. (doi: 10.1007/s00438-021-01762-5)	2021年2月
		広範な病原菌の制御に活用できる大型ファージを効率よく分離する方法	生物工学会誌(99巻、2号、p. 68)	2021年2月
高知学習センター	深見 公雄	Fukami, K., F. Takagi, K. Sonoda, H. Okamoto, D. Kaneno, T. Horikawa, and M. Takita, Effects of the monomeric components of poly-hydroxybutyrate-co-hydroxyhexanoate on the growth of <i>Vibrio parahaemolyticus</i> in vitro and on the survival of infected kuruma shrimp ( <i>Marsupenaeus japonicus</i> ).	Animals, 11: 567. <a href="https://doi.org/10.3390/ani11020567">https://doi.org/10.3390/ani11020567</a>	2021年2月
長崎学習センター	伊東 昌子	Eldecalcitol is superior to alfacalcidol in maintaining bone mineral density in glucocorticoid-induced osteoporosis patients (e-GLORIA)	J Bone Miner Metab 38 (4):522-532,2020	2020年4月
		Minodronate combined with alfacalcidol versus alfacalcidol alone for glucocorticoid-induced osteoporosis: a multicenter, randomized, comparative study	J Bone Miner Metab 38 (4):511-521,2020	2020年4月
		Effects of monthly intravenous ibandronate on bone mineral density and microstructure in patients with primary osteoporosis after teriparatide treatment: The MONUMENT study	Bone 144: 115770	2021年3月



## 国際交流への取り組み

2020年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響を受けて、従来本学が実施してきたような国際会議での発表や海外の協力交流協定締結校への調査訪問等による連携強

化、海外の遠隔教育機関より講演者を招へいしての国際シンポジウムの開催や、海外からの来訪の受け入れが総じて困難になり、国際交流を推進する上では試練の一年となった。

### オンラインによる国際機関への貢献

第34回アジア公開大学連合(AAOU)年次大会及び第35回AAOU理事会は2021年6月に、国際遠隔教育会議(ICDE)リーダーシップサミットは2021年4月に開催延期となった。

このような状況下において本学はAAOU理事としてオンラインを用いた意見交換、審議等に積極的に参加し、AAOUにおけ

る意思決定に貢献した。

また、AAOU主導で取りまとめているオンライン遠隔教育についての書籍に寄稿すること等を通じて、各機関における情報交換の活性化に寄与した。この書籍には、本学を含む13大学が参加しており、2021年6月に出版予定である。

### 新型コロナウイルス流行下における国際交流の推進

協力交流協定締結校や加盟団体のオンラインによるセミナー等の情報収集を行い、本学教員の積極的な参加を促した結果、オンライン国際研究集会等への30件以上の参加実績があった。国際交流経費による教職員の海外派遣については従来海外渡航を伴うもののみに対応していたところ、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航ができない状況に配慮し、オンラインによる国際研究集会等への参加についても経費支援を行えるよう特例措置をとった。

また、協力交流協定締結校であるブータン王立大学のシェルブツェ・カレッジの科目制作について、河合明宣特任教授(当

時)がオンラインでの技術支援を実施した。また、同じく協力交流協定締結校である中国・国家開放大学(OUC)が主導している、世界の公開大学のガバナンス及び好事例をまとめる出版物に岩永雅也副学長(当時)が執筆した論文(Predictions and Strategies of Open and Distance Higher Education in Japan)を12月に寄稿し、本学のプレゼンス向上に努めた。この出版物には本学を含む9大学の学長等が寄稿しており、2021年中には英語版と中国語版が出版される予定である。

### 本学との協力交流協定を締結している海外の大学(2021年3月時点)

国・地域	機関名(英語表記)	締結年月日
ブータン	Royal University of Bhutan ブータン王立大学	2017/8/18
ブラジル	Universidade Federal de Mato Grosso マトグロソ連邦大学	2018/9/28
カナダ	Athabasca University アサバスカ大学	2017/10/13
中国	The Open University of China 国家開放大学	2009/5/7
韓国	Korea National Open University 韓国放送通信大学校	2008/9/22
モンゴル	National University of Mongolia モンゴル国立大学	2019/10/15
スペイン	Universitat Oberta de Catalunya カタルーニャ公開大学	2014/8/1
台湾	National Open University 国立空中大学	1993/4/16
タイ	Sukhothai Thammathirat Open University スコータイ・タマティラート公開大学	2012/5/15
英国	The Open University オープン・ユニバーシティ	2012/7/1
米国	University of Maryland Global Campus メリーランド大学グローバルキャンパス	2009/11/15

## 教員による社会貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。

本学の教員は、多岐にわたる社会貢献活動を行っており、その中から活動の一部を紹介する

### 日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという考えのもと、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、政府から独立した「特別の機関」として1949年に設立された。

職務は、①科学に関する重要事項を審議しその実現を図ること、及び②科学に関する研究の連絡を図りその能率を向上させることである。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・

工学の全分野における科学者約87万人を内外に代表する機関で、210人の会員と約2,000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。(日本学術会議ホームページより抜粋)

本学の教員は、下表の会員加入状況を示すように連携会員に選ばれ活動に貢献している。

#### 日本学術会議での会員(連携会員)加入状況

所属	氏名	職名	専門分野	会員区分
社会と産業	柳原 正治	教授	法律学	連携会員(2020年9月末まで)
人間と文化	稲村 哲也	特任教授	地域研究、環境学	連携会員(2020年9月末まで)
心理と教育	岩永 雅也	副学長	教育社会学・社会調査	連携会員(2020年9月末まで)
東京文京学習センター	林 徹	所長	言語・文学	連携会員
長崎学習センター	伊東 昌子	所長	放射線医学、男女共同参画	連携会員

### 学会、国、地方自治体等での活動

本学教員は、それぞれの専門性を生かし、学識者として社会において幅広く活躍している。

活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

#### 学会、国、地方公共団体等での活動

所属	氏名	職名/役職	所属	氏名	職名/役職
生活と福祉			生活と福祉		
関根 紀子	日本体力医学会/渉外委員 日本体力医学会/評議委員 スポーツ庁 体力・運動能力調査に関する検討委員会/協力者		大曾根 寛	名古屋市障害者差別解消支援会議/委員長 名古屋市障害者差別解消調整委員会/委員長 名古屋市社会福祉協議会権利擁護事業運営委員会/委員長	
山内 豊明	厚生労働省 医道審議会/委員 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター/専門調査員 日本学術振興会/専門委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 総合評価部会/委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 専門分析班/委員 日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会/委員 日本医療マネジメント学会/理事 日本臨床看護マネジメント学会/理事 日本看護医療学会/理事 日本看護教育学会/理事 日本看護科学学会/評議員 日本看護管理学会/評議員		吉村悦郎	文部科学省/教育関係共同利用拠点制度審査員	
			心理と教育		
			岩崎 久美子	日本生涯教育学会 / 理事 東京都武蔵野市教育委員会/事務点検・評価委員 東京都福生市教育委員会/事務点検・評価委員 千葉県千葉市教育委員会/事務点検・評価委員	
			小川 正人	文部科学省中央教育審議会/臨時委員 国立教育政策研究所/評議員会会長 目白大学/理事・評議員 日本教育行政学会/理事 日本教育行政学会/理事	

## 学会、国、地方公共団体等での活動

所属 氏名	職名/役職	所属 氏名	職名/役職
心理と教育		公認心理師教育推進室	
倉光 修	日本遊戯療法学会/理事	桑原 知子	日本箱庭療法学会/常務理事 日本ユング心理学会/理事/副理事長 日本心理臨床学会/代議員
小林 真理子	日本臨床心理士会/代議員 栃木県臨床心理士会/理事 日本遊戯療法学会/評議員 日本サイコオンコロジー学会/代議員	岩手学習センター	
進藤 聡彦	山梨県社会教育委員/委員 甲府市社会福祉審議会/児童福祉専門分科会会長 日本教育心理学会 代議員・ハラスメント防止委員会/委員長 甲斐市いじめ防止連携会議/議長	西崎 滋	岩手県原発放射線影響対策本部 放射線影響対策特命チーム/アドバイザー 滝沢市ラジオメディカルセンター放射線監視委員会/委員 (仮称)岩手県高等教育地域連携プラットフォーム準備会/委員
橋本 朋広	日本ロールシャッハ学会/理事	秋田学習センター	
社会と産業		西田 眞	秋田県地方独立行政法人評価委員会/委員長 秋田県自然エネルギー開発協会/会長
児玉 晴男	一般社団法人 企業法学会/理事長 知的財産高等裁判所/専門委員 一般社団法人 日本機械学会 法工学専門会議/運営委員会 委員	東京文京学習センター	
白鳥 潤一郎	日本国際政治学会/書評小委員会 委員	林 徹	日本語学会/評議員
原田 順子	横浜市/物流等関連施設等指定管理者選定評価委員 人材育成学会/選挙管理委員会委員	福島学習センター	
松井 美樹	オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/会長 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/全国研究発表大会実行委員長 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/全国研究発表大会基調講演「SCM研究の新たな課題」 日本情報経営学会/国際委員会委員 European Operations Management Association/査読委員 Vietnamese Academic Network in Japan/招待講演「Lessons from an MBA Program in Hanoi」	千葉悦子	福島県男女共生センター/館長 福島県人事委員会/委員 郡山市青少年会館運営委員会/委員
松原 隆一郎	杉並区立杉並芸術会館運営懇談会/委員長 内閣府ナショナル・レジリエンス懇談会/委員 国土交通省 無電柱化推進のあり方検討委員会/委員 油脂産業論文選考委員会/委員長	東京足立学習センター	
柳原 正治	国際法学会/名誉理事 国際法協会日本支部/理事・研究企画主任 世界法学会/監事 九州国際法学会/理事長 (公財)安達峰一郎記念財団/顧問	猪崎 弥生	舞踊学会/会長 独立行政法人日本芸術文化振興会 /芸術文化振興基金運営委員会運営委員 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会/理事 公益財団法人足立区生涯学習振興公社/理事 一般社団法人現代舞踊協会/舞踊年鑑2020編集委員長
人間と文化		富山学習センター	
稲村 哲也	長久手市国際交流協会/会長	門脇 真	日本神経消化器病学会/評議員 和漢医薬学会/評議員 日本学術振興会/科学研究費委員会 専門委員 科学技術振興機構 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)機能検証フェーズ/専門委員 科学技術振興機構 大学発新産業創出プログラムプロジェクト支援型/専門委員
河原 温	公益財団法人 史学会/理事 メトロポリタン史学会(東京都立大学)/編集委員 比較都市史研究会/編集幹事	岐阜学習センター	
近藤 成一	一般財団法人 歴史科学協議会/代表理事	野々村 修一	岐阜県省エネ・新エネ推進会議/委員長 岐阜県地球温暖化対策実行計画懇談会/委員長 岐阜県防災会議 原子力専門部会/委員 岐阜県気候変動適応センター/センター長 岐阜市中心市街地活性化協議会/会長 応用物理学会東海支部/諮問委員
杉森 哲也	都市史学会/副会長	三重学習センター	
野崎 敏	文化庁/芸術選奨文学部部門選考審査員	清水 真	公益信託伊藤徳三ひまし研究基金運営委員会/運営委員 三重大学付属病院医薬品等受託研究審査委員会/審査委員 有機合成化学協会東海支部/常任幹事 四日市市新規産業創出研究会/副委員長 IUPAC International Conference on Novel Materials and their Synthesis/組織委員 Heterocycle誌/編集委員
情報		大阪学習センター	
辻 靖彦	大学ICT推進協議会 ICT利活用調査部会/委員 教育システム情報学会関東支部/幹事	西田 正吾	公立大学法人大阪/監事(非常勤) 一般社団法人システム制御情報学会/代議員 奈良先端科学技術大学院大学支援財団/支援事業選考委員 ヒューマンインタフェース学会/評議員 一般財団法人懐徳堂記念会/評議員 大阪大学大学院言語文化研究科/外部評価委員
山田 恒夫	国際ボランティア学会/監事 公益財団法人 足立区生涯学習振興公社 個人情報保護委員会/委員	奈良学習センター	
自然と環境		井上 容子	日本建築学会色彩設計法小委員会/委員 日本建築学会視環境設計法小委員会/委員 日本建築学会明視評価WG/委員 日本学術振興会/特別研究員等審査会専門委員
加藤 和弘	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター/専門調査員 一般社団法人環境情報科学センター/常務理事 千代田区生物多様性推進会議/副座長 千代田区ちよだ生物多様性大賞選定委員会/副座長		
障がいに関する学生支援相談室			
角田 哲哉	国立病院機構下志津病院/研究倫理審査委員 千葉県教育委員会(四街道特別支援学校) 開かれた学校づくり/委員会委員 四街道市教育委員会/特別支援教育専門家チーム委員		

学会、国、地方公共団体等での活動

所属 氏名	職名/役職	所属 氏名	職名/役職
奈良学習センター		高知学習センター	
井上 容子	奈良県収用委員会/委員 奈良県廃棄物処理施設設置検討委員会/委員 奈良県大規模小売店舗立地審議会/委員 大阪市屋外広告物審議会/会長 神戸市港湾道路照明LED化ESCO事業委託候補者提案審査委員会/委員 東大阪市営北蛇草住宅C棟建替事業に係る事業者選定委員会/委員 寝屋川市景観審議会/委員	深見 公雄	国交省四国地方整備局/河川・渓流環境アドバイザー 独立行政法人高知大学/海洋コア総合研究センター客員教授 高知県教育の日「志・とさ学びの日」推進県民協議会/メンバー
鳥取学習センター		長崎学習センター	
小林 一	鳥取地方労働審議会/委員 鳥取県地域訓練協議会/委員	伊東 昌子	日本骨代謝学会/監事 日本骨粗鬆症学会/理事 日本性差医学・医療学会/理事 長崎県教育委員会/委員 長崎県公立大学法人評価委員会/委員
高知学習センター		大分学習センター	
深見 公雄	日本水産学会/中四国支部評議員 マリンバイオテクノロジー学会/評議員 海洋深層水利用学会/理事 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構/国立大学教育研究評価委員会専門委員 公益財団法人黒潮生物研究所/理事	古城 和敬	大分市教育委員会/教育委員(教育長職務代理者) 大分県市町村教育委員会連合会/会長 大分市要保護児童対策地域協議会/会長 大分県スポーツ推進審議会/副会長
		沖縄学習センター	
		川本 康博	日本草地学会/編集委員会委員 日本暖地畜産学会/評議員、2020年度10月沖縄大会・実行委員長

一般向け講演会

所属	講師	テーマ	主催等	方式	開催年月日
生活と福祉	大曾根 寛	権利擁護の過去・現在・未来-第4世代が育つために-	主催:大曾根寛先生退職記念講演会・シンポジウム実行委員会	オンライン	2021年2月28日
心理と教育	岩崎 久美子	長寿社会で学ぶということ(東京都三鷹市生涯学習センター市民大学事業)	公益財団法人 三鷹市スポーツと文化財団三鷹市生涯学習センター		2021年2月26日
	小川 正人	学校における「働き方改革」の論点と取組みの課題、展望 学校における「働き方改革」の論点と取組みの課題、展望 学校の働き方改革の目的と1年単位変形労働時間制 学校における安全衛生の取組みと課題	石川県教員総合研修センター学校経営セミナー校長研修 栃木県芳賀四町教育研究協議会教頭研修会 NPO法人・共育の杜:エンパワーメントセミナー NPO法人・共育の杜:新時代の労働安全管理の基礎講座	オンライン オンライン オンライン オンライン	2020年7月16日 2020年10月29日 2021年3月6日
	小林 真理子	がん教育における配慮事項ガイドラインについて -身近にがん患者さんがいる子どもたちへの配慮- がんとコロナとこころ-自宅でするセルフケア-	がん患者団体連合会 若年性乳がんサポートコミュニティPink Ring		2020年11月21日 2020年5月23日
社会と産業	原 武史	「松本清張」で読む昭和史 〈出雲〉という思想 中原中也と鉄道	かわさき市民アカデミー 島根県古代文化センター 山口市文化交流課		2020年10月15日、22日、11月19日 2020年10月31日 2020年11月7日
人間と文化	河原 温	社会史から見る中世ヨーロッパ世界	NHK文化センター		9月7日、14日、28日、10月5日、12日、19日
	近藤 成一	鎌倉時代の信濃武士の家族生活-文永2年の裁許状を読む- 鎌倉時代の信濃武士の家族生活-文永2年の裁許状を読む-その2 ちばの「礎を築いた人」~千葉常胤の生涯	長野県立長野高校金鶏会館 長野県立長野高校金鶏会館 ちば産官学連携プラットフォーム「ちば学リレー講座2020」		2020年10月3日 2020年12月19日 2021年3月13日
	野崎 敏	フランス文学案内:ウエルベック『服従』	朝日カルチャーセンター新宿教室		2020年2月28日
情報	三輪 眞木子	「高齢者のヘルスリテラシー向上のための教材開発と教育方法の提案」	世田谷区生涯大学・41期自主研究会		2021年2月25日
自然と環境	大森 聡一	メガクライシス第1回「地球史 ダイナミックな地球」	こまえ市民大学		2021年2月6日
	谷口 義明	宮沢賢治の宇宙	岩手大学人文社会科学部宮沢賢治いわて学センター 第6回研究会	オンライン	2021年1月28日
公認心理師 教育推進室	桑原 知子	「箱庭療法ともう一人の私」禾心online經典大師講座 箱庭の表現を「聴く」	Holding Self Counseling Center (台湾) 日本箱庭療法学会		2020年9月4日 2021年2月28日
福島学習センター	千葉 悦子	ともに生き 学びあい 地域の未来をひらく-人生100年時代の生涯学習	会津大学短期大学部地域活性化センター特別講演会		2020年12月13日
東京文京学習センター	林 徹	インタビューとアンケートによるデータの収集:トルコ語調査での活用例	2020年中東イスラム教育セミナー(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)		2020年9月19日
富山学習センター	門脇 真	メディカルハーブによる食物アレルギー体質の改善効果について	日本メディカルハーブ協会		2021年1月11日
鳥取学習センター	小林 一	コロナ禍での食料問題を考える	鳥取県消費者組合連合会		2021年3月13日
長崎学習センター	伊東 昌子	誰もが活躍できる医師の働き方改革を目財して 医学生・研修医をサポートする会	全国ダイバーシティネットワーク 京都府医師会		2021年2月20日 2021年3月6日



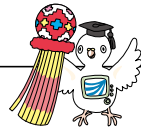
## 表彰・受賞

所属	氏名	表彰・受賞内容	年月日
心理と教育	小川 正人	日本教育行政学会功労賞	2020年10月3日
		日本教育行政学会名誉会員授与	2020年10月3日
社会と産業	松井 美樹	PAJAIS Highly Cited Article How Long Tail and Trust Affect Online Shopping Behavior: An Extension to UTAUT2 Framework, Pacific Asia Journal of the Association for Information Systems, Vol.9, No.4, pp.1-24, December 2017	2020年12月
富山学習センター	門脇 真	和漢医薬学会 学会賞受賞 「漢方薬リポジショニングを目指した薬理学的および情報科学的研究」	2020年8月29日
岐阜学習センター	野々村 修一	岐阜新聞大賞(学術部門)	2021年2月6日
広島学習センター	山田 隆	日本生物工学会第28回生物工学論文賞 Systemic method to silate large bacteriophages for use in biocontrol of a wide range of pathogenic bacteria (広範な病原菌の制御に活用できる大型ファージを効率よく分離する方法)	2020年9月2日

## その他の社会貢献

所属	氏名	社会貢献活動内容	実施年月日	所属	氏名	社会貢献活動内容	実施年月日	
生活と福祉	吉村悦郎	中央大学 理工学部非常勤講師「基礎化学」		情報	広瀬洋子	一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会 監事		
		東京農業大学 生命科学部非常勤講師「生物無機化学」				山田 恒夫	EDUCAUSE 「2021 Horizon Report」 Panel	
		早稲田大学 理工学部非常勤講師「生命環境化学」					一般社団法人 日本IMS協会理事・運営委員会委員長・技術委員会委員・IMS Japan 賞選考委員会委員長	
心理と教育	小川 正人	教育月刊誌『教職研修』編集顧問	2020年10月2日	自然と環境	谷口 義明	NPO法人 草の根国際協力研修プログラム(GONGOVA)理事		
		日本教育新聞社『日本教育新聞』社外論説委員(社説執筆)				「ノーベル賞研究に先んじていた野辺山電波天文台の成果」朝日新聞論座	2020年11月6日	
	小林 真理子	世田谷区児童相談所心理職研修会「描画法の基礎」	2020年11月30日			雑誌寄稿 19世紀、渦巻星雲に銀河をみた人	2020年12月	
		国立がん研究センター東病院 mAYAcon オンラインセミナー「がん患者さんの子どものケア」	2020年12月13日			「KamoZine」(千葉県鴨川市、かもがわナビ)		
		NPO法人 Hope Tree 主催医療者研修会 「未成年の子どもがいる患者を支える」	2020年12月16日			雑誌寄稿 イーハートブの夜空のX -「銀河鉄道の夜」に出てくる「天気輪の柱」は対日照なのか?	2021年2月	
	上智大学プロフェッショナルスタディーズ講義 「子育て中のがん患者さんと子どもへの支援」	2021年3月5日	谷口義明、渡部潤一、畑英利、 「天界」(東亜天文学会 会誌)、41-45頁					
		家庭裁判所調査官養成課程 合同研修講師「描画法」	2020年7月9日			雑誌寄稿 銀河誕生の謎に挑む 「科学」(岩波書店)、237-239頁		
	田中 統治	山形県教育センター・令和2年度学校運営基礎講座・講師	2020年10月19日			「海部宣男さんと宇宙吟遊 - 天文学者、俳句と短歌を詠む」朝日新聞論座	2021年2月19日	
		仙台市教育委員会・「カリキュラム・マネジメント」 コーディネーター養成研修・講師	2020年8月24日			安池 智一	東京大学 教養学部非常勤講師「構造化学」	
		ミャンマー国初等教育カリキュラム改訂 プロジェクト教科書編集国内研修・講師	2020年7月~9月、 2021年3月				京都大学大学院 理学研究科非常勤講師「化学特別講義」	
橋本 朋広	菱橋ファミリー・クリニック・対人援助専門講座 「グループ・スーパーヴィジョン」	2021年3月	静岡大学 理学部非常勤講師「化学特別講義」					
	沖縄県精神科病院協会・公認心理師部会 研修会「ロールシャッハ研修会」	2021年2月4日	立教大学大学院 理学研究科非常勤講師「物理化学応用特論4」					
社会と産業	児玉 晴男	和光大学 FD研修会講演「オンライン授業と著作権」		秋田学習センター	西田 眞	秋田テレビ「土曜Live!あきた」 コメンテーター(月に一度程度)		
		白鳥 潤一郎	公益財団法人 日本国際問題研究所国際政治史検討会委員 雑誌寄稿 新潮社 Foresight(フォーサイト)「日米関係」 だけでは見誤る「ポスト・ポスト冷戦期」の日本外交			福島学習センター	千葉 悦子	飯館村 社会教育委員研修会講師 2020年度ACF会津若松ザベリオ学園高等学校 高大連携事業 講師;SDGs の学びを踏まえて「世界のために自分が行うべき (学ぶべきこと)」ZOOM成果報告会
	原 武史	特定非営利活動法人 日中文化交流協会理事 朝日新聞土曜版連載「歴史のダイヤグラム」		岐阜学習センター	野々村 修一	小型フローバッテリーの開発 多田精機・岐阜大学との共同研究		
	原田 順子	航空自衛隊幹部学校 指揮幕僚課程 課題研究指導		八百津町マイクログリッド構築 八百津町、大日本コンサルタント、 アノードエナジー等への支援				
	松井 美樹	横浜国立大学 日本学術振興会外国人特別研究員受入		京都学習センター	杉島 敬志	京都建築大学校 学校関係者評価委員会委員		
		横浜国立大学大学院 国際社会学府博士論文審査委員				京都伝統工芸大学校 学校関係者評価委員会委員		
		日越大学 研究教育評議会委員				公益財団法人 松下幸之助志記念財団理事		
		日越大学 企業管理プログラムCo-director		沖繩学習センター	川本 康博	琉球大学 2020年12月24日~26日		
	松原 隆一郎	古文書のオンライン公開および解説サイトの開設「荘直温松山庄家記念館」 毎日新聞書評委員		農学部オンライン集中講義		2021年2月26日~28日		
					鹿児島大学 共同獣医学部オンライン集中講義	2021年3月4日~3月5日		
				JICA 研修生対象講義	2021年2月10日			
情報	辻 靖彦	日本女子大学非常勤講師 「教育方法・技術(中高)」				「第5回農水産業支援技術展・ 沖繩」の開催実行委員	2021年3月9日~10日	

## 学習センター・学生の活動



### 宮城学習センターの移転・記念式典



宮城学習センターの建物外観

宮城学習センターは、宮城県仙台市にある東北大学片平キャンパス内の、古い歴史と由緒のある赤煉瓦張りの美しい建物の中にある。2018年から耐震補強工事が行われており、およそ2年間は別の場所に移転していたが、工事が完了し美しい学び舎が再開した。


宮城学習センターの入居する建物は、1923年に旧東北帝国大学理学部生物学教室として竣工し、19世紀にウィーン等で流行したゼツェッション様式が玄関周りに用いられた。その後、第2次世界大戦時の仙台大空襲や東北大学のキャンパス再開発計画等により、同建物は何度も存続の危機に遭ってきた。

放送大学の第2学期が始まった2020年10月1日、これまで長い間閉鎖され今回の工事で蘇った玄関ホールにおいて移転開所式が行われた。当初、多くの招待者による式典を予定したが、

コロナ禍の影響により、本学教職員や学生サークルの代表者等の少人数での開催となった。式典のあと、参加した学生たちは、新しくなって帰ってきた学習センターを見学した。

また、宮城学習センターの秋永雄一客員教授による記念講演『生きている「歴史的建造物」で学ぶ：宮城学習センターの建物について』が、同建物において象徴的な半円形をした教室を会場に行われ、同建物の持つ歴史的な意義が伝えられた。講演は、同建物内別室の在學生や式典参加者に向けてもTV会議システムを使って配信された。

式典当日の様子及び同建物内部の様子は、放送大学YouTubeチャンネルで視聴できる。

 放送大学YouTubeチャンネルはこちら

<https://www.youtube.com/channel/UCd8zAzjHklcPbnTDyn-q50w>



半円形教室の外観と移転開所式



### 入学者の集い・学位記授与式

3月下旬～4月上旬及び9月下旬～10月上旬に各学習センターで開催された。今年はオンラインでの開催を試みる学習センターもあったが、対面で開催した愛媛学習センターの様子を紹介する。

愛媛学習センターでは、10月4日(日)午後12時30分から、愛媛学習センター講義室にて、令和元年度第2学期と令和2年度第1学期の「卒業証書・学位記授与式」及び、令和2年度第2学期「入学者の集い」を実施した。令和元年度第2学期の式典が、コロナ禍のため中止となったが、令和2年度第1学期と合同で「卒業証書・学位記授与式」を開催した。コロナ禍のため、在學生の参加は自粛となったが、卒業生、新入生、合わせて約50名が参加した。

授与式には、教養学部卒業生75名(2019年2学期41名、2020

年1学期34名)のうち28名(2019年2学期13名、2020年1学期15名)が出席し、加藤所長から一人ずつ卒業証書・学位記が授与された。

令和元年度第2学期の卒業生代表として麻生美登里さん、令和2年度第1学期の卒業生代表として田頭正啓さんから謝辞があった。



麻生美登里さん 田頭正啓さん

授与式の後、平松義樹客員教員による記念講演会「考えるということ」が開かれた。久しぶりの対面の講演に、参加者は興味深く聞き入っていた。「入学者の集い」では加藤所長から新入生への歓迎の挨拶があり、客員教員の自己紹介があった。続いて新入生対象のオリエンテーションと施設案内を行った。

## 周年記念式典・文化祭

毎年、多くの学習センターで文化祭を開催し、学生の学習成果や学生団体(サークル)活動の成果を発表、披露している。また、学習センター及びサテライトスペースの設立を記念した周年記

念式典も開催されている。今年度は、多くのイベントが中止されたが、いくつかの学習センターでは感染防止対策を講じた上で開催した。

### 広島学習センター 開設30周年記念行事



2020年10月31日と11月1日の2日間、広島学習センター開設30周年記念行事が開催されました。

#### DAY 1 来生新学長及び 広島学習センター前所長 安原義仁先生による記念講演会

1日目は、開設記念式典の後、来生新学長及び、広島学習センター前所長である安原義仁先生による記念講演会が行われた。来生学長は「人生100年時代の生涯学習と放送大学」、安原前所長は「英国オープン・ユニバーシティの半世紀を振り返って—放送大学への示唆—」のテーマで、事前予約のうえ来場した参加者に講演を行った。



#### DAY 2 本学学生による公開シンポジウム

2日目には、公開シンポジウムが本学学生により開催された。第1部は「放送大学に学んで」というテーマでの在学学生4名による体験談の発表があった。第2部は「放送大学への期待」というテーマで、パネルディスカッション方式により学生の立場から本学に期待することを活発に意見交換した。



また、広島学習センター内では2日間を通して「広島学習センター文化祭(作品展示会)」を同時開催し、学生(個人及び団体)、同窓会会員、客員教員による作品の展示が行われた。学生

サークル等で制作した絵画、写真、俳句、短歌や留学先での学びをレポートしたパネル等、多様な作品の展示会となった。

### 2020年度 周年一覧

SC/SS	北海道	山形	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京文京	神奈川	浜松SS	岡山	広島	愛媛	福岡	沖縄
設置年度 (西暦)	平成2 (1990)	平成7 (1995)	平成7 (1995)	昭和60 (1985)	昭和60 (1985)	昭和60 (1985)	昭和60 (1985)	昭和60 (1985)	平成12 (2000)	平成7 (1995)	平成2 (1990)	平成7 (1995)	平成2 (1990)	平成2 (1990)
2020年	30周年	25周年	25周年	35周年	35周年	35周年	35周年	35周年	20周年	25周年	30周年	25周年	30周年	30周年



## 学生団体(サークル)活動

学生同士の親睦を深め豊かなキャンパスライフを築くため、  
本学はサークル活動を支援している。年齢や人生経験が異なる

人達との交流が、共通の目的を持って活発に行われた。



北海道  
学習センター

### Voice of the Circle

#### 【パソコン学び隊】

#### 近況報告から卒論の発表まで、日本各地の放送大学生と盛んに活動

島田 静香

私たちパソコン学び隊は、北海道学習センターの6階実習室で、土曜日の午後1時から3時まで活動しています。月二回を目安にしておりますが、面接授業などで実習室が使えない場合には、月に一回しか活動できない時もあります。しかも、今年は、新型コロナ感染防止のため、学習センターが休館! 思いもよらない事態に、活動も危うくなりました。それでも、仲間からの提案で、テレワークがあるじゃないかと、実験的にhangoutというアプリを使い、遠隔活動を開始。初めこそ、チラホラとしか集まらなかった仲間も集まりだし、今はより使い勝手の良い、Google meetで毎週土曜日か日曜日の午後、遠隔活動を行っております。それも、せっかく遠隔で活動するのなら、全国の放送大学生を巻き込んでやえということで、Facebookに遠隔活動の旨を投稿。今では日本各地の放

送大学生と、近況報告から、卒論の発表など、多岐にわたった活動しております。

放送大学の強みは、年齢を超え、場所を選ばず、各人の都合に合わせて学習できることだと思っはいましたが、まさか、新型コロナのおかげで、その強みをまざまざと実感させられるとは思っていませんでした。実際、Google meetでの活動の際には、旅行写真を共有して観たり、桜の時期には実況中継をしてくださったり、最近では20名以上の参加を数えることもあり、活動はより一層盛んに行われております。

今後も、楽しい活動を続けて行きたいと思っております。



大阪  
学習センター

### Voice of the Circle

#### 【放送大学関西陸上競技部】

#### 「通信制大学」初の取り組み。目指す目標は「丹後大学駅伝」出場!

副将 山口雄也

私たち関西陸上競技部は、2020年、ここ放送大学大阪学習センターにて産声を上げた「公認サークル」です。目指す目標はただ1つ、「丹後大学駅伝」に出場することです。関西の大学駅伝No.1を決定する駅伝大会で毎年11月に開催されており、知名度は箱根駅伝ほど高くありませんが、丹後半島や天橋立を加えた8区間80kmあまりの贅沢なコースとなっております。そんな丹後大学駅伝に出場するために、関西の市民ランナーが集まって関西陸上競技部を立ち上げたというわけです。

創部初年度の出場を目的としていましたが、残念ながら本年度はまさかのコロナ禍により出場枠に制限がかかり、その切符を獲得することができませんでした。しかし、秋以降様々なレースに挑戦して力をつけ、虎視眈々と次年度の出場を狙っています。次年度は必ずやその切符を獲得する所存です。

私たちの特徴は、なんとと言っても「通信制大学」初めての取り

組みであることではないでしょうか。全員がアラサーの大学スポーツ団体は、全国に類を見ないことと思います。そもそも20代後半や30代にもなって「学生駅伝」に挑戦しようなんて思いつきもしないでしょう。それでも、いくつになっても誰に何と言われようとも「思い」がある限り挑戦はできる、そういった思いで日々の練習に取り組んでおります。我々の挑戦が、どこかの誰かの挑戦の後押しになれば望外の幸せです。

最後になりましたが、陸上競技は自分自身と対話し、その限界を相手と、そして自分自身と競うスポーツです。そこに競技力や年齢は関係ありません。1秒でも速く走る、1cmでも遠くに跳ぶ、投げる、そんな魅力に取りつかれたものが、競技力や年齢の壁を越えて様々な大会に出場しています。私たちも、関西中の様々な大会に出場してまいりますので、コロナ禍が落ち着きましたらぜひ陸上競技場へお越しください。

▶ 活動の様子はHPやTwitter、YouTubeで!  放送大学 陸上





## 公開講演会

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学教員に加え、各地域や分野で活躍する多彩な方々を講師にお招きし、本学学生に

限らず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、共に考える機会を提供した。今年度は中止や延期も多かったが、実施できた講演から2件を紹介する。

青森  
学習センター



テーマ 「明日のために木を植える ～りんご農家自身に取り組む次の一手～」

講師 高橋 哲史 氏(㈱百姓堂本舗・弘前シードル工房代表)

会場 つがる市立図書館

「りんご農家の長男に生まれ、りんごがあるのは当たり前だった。東京で学び勤めているときに送られてきたりんごを食べずに腐らせてしまうことも多かった。」という講師の高橋氏は、Uターンしてりんご農家を継ぐことになって初めてりんごについて考えるようになったと語る。

講演はその後、明治に始まった弘前のりんご栽培の歴史を織り交ぜながら、本来は栽培に適さない弘前の土地に対して先人たちがどう今の栽培法を確立し、美味しいりんごの収穫量を増やしてきたのかのお話に続いた。



りんごへの想いのあふれる講演会



つがる市立図書館とのコラボ企画

そして、現在の後継者減少は農家だけの問題ではなく、地域経済にも影響を及ぼすことをみんなで考えることが大事だということを、『りんごの木の下』で行うイベント企画を通して訴えているとのこと。「りんご作りは人作り」をコミュニティに浸透させることが、次の時代に向けた取り組みなのだということを再認識した講演会だった。

この講演会は、地元紙2紙に取り上げられたほか、NHKラジオ第2「文化講演会」でも放送された。

長崎  
学習センター



リレー公開講座

テーマ 「長崎の歴史から未来を考える」

特別企画 「れきぶんツアー」

11月1日、15日、28日の3回にわたってリレー公開講座「長崎の歴史から未来を考える」を開催した。長崎大学多文化社会学部の木村直樹先生をコーディネーターに、第1回「鎖国再考―国際都市長崎から考える」(木村直樹先生)、第2回「長崎海軍伝習所における欧米の諸知識・諸技術の受容について」(長崎大学経済学部・南森茂太先生)、第3回「『潜伏キリシタン関連遺産』の問題点と今後の課題」(長崎大学多文化社会学部・才津祐美子先生)の講演が行われた。

この公開講座は、長崎歴史文化博物館を会場に、オンラインでも配信し、第1回ではオンラインでのトラブルがあったものの、延べ156名が参加・視聴した。参加者の方からは「専門的でありながら大変わかりやすかった。」「郷土の歴史について知らなかった多くの点を学ぶことができた。」「歴史には多様な見方が必要なことを学んだ。」「遠方からでもオンラインで気軽に参加できた。」などの声が寄せられた。

11月19日には、リレー公開講座連動の特別企画として、長崎歴史文化博物館で「解説付れきぶんツアー」を開催した。今年度は学生研修旅行を中止したところだが、10名の学生が参加した。歴史文化博物館研究員の方の詳しい説明に、皆さん熱心に耳を傾けていた。



れきぶんツアーで博物館研究員の解説を聞く参加者

## データで見る放送大学

## 在学生数

単位:人

▶教養学部	学生の種別等	在学生
	全科履修生	56,882
	選科履修生	15,977
	科目履修生	6,735
	特別聴講学生	3,214
	合計	82,808
▶大学院	学生の種別等	在学生
	修士全科生	861
	修士選科生	2,786
	修士科目生	525
	修士特別聴講学生	5
	博士全科生	68
	合計	4,245

(2020年度第2学期)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

## 集中科目履修生

単位:人

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	942

(2020年度)

## 教職員数

単位:人

役員	6	※1
教員	92	
学習センター所長	50	
事務職員	247	
合計	395	※2

(2020年4月1日現在)

※1 学長(理事)、1副学長(理事)を含む

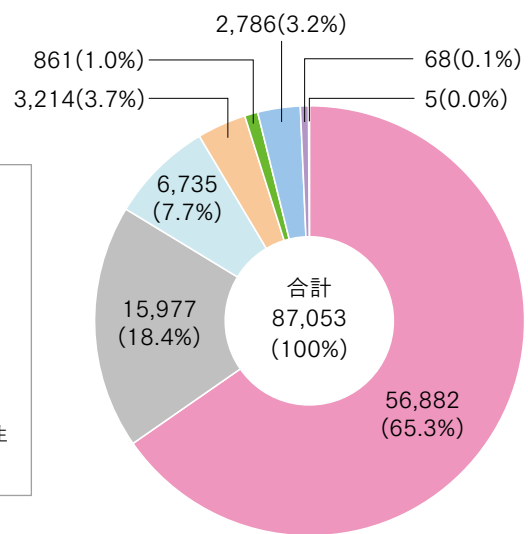
※2 重複があるため合計は一致しない

## 単位互換協定締結校数

単位:校

学校の種別	校数
大学院	9
大学	308
短大	90
高专	16
合計	423

(2021年3月31日現在)



## 入学者数

単位:人

▶教養学部	学生の種別等	1学期	2学期	合計
	全科履修生	7,410	4,855	12,265
	選科履修生	10,285	5,590	15,875
	科目履修生	4,729	6,735	11,464
	特別聴講学生	989	3,214	4,203
	合計	23,413	20,394	43,807
▶大学院	学生の種別等	1学期	2学期	合計
	修士全科生	287	—	287
	修士選科生	1,873	872	2,745
	修士科目生	371	525	896
	修士特別聴講学生	8	5	13
	博士全科生	14	—	14
	合計	2,553	1,402	3,955

(2020年度)

## 学部卒業生数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
2,374	4,124	6,498	118,248

(2020年度)

## 大学院修士課程修了者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
4	253	257	6,440

(2020年度)

## 大学院博士後期課程修了者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
—	11	11	28

(2020年度)



# 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11  
TEL:043-276-5111(総合受付)  
<https://www.ouj.ac.jp/>

